

年報

2021 年度



東京医療保健大学東が丘看護学部

**TOKYO HEALTHCARE UNIVERSITY**

**Higashigaoka Faculty of Nursing**

東京医療保健大学東が丘・立川看護学部（臨床看護学コース）

**TOKYO HEALTHCARE UNIVERSITY**

**Higashigaoka-Tachikawa Faculty of Nursing**

**(Clinical Nursing Program)**

# 2021 年度 年報

## 目次

○巻頭言	1
1. 組織図	2
2. 学内行事の概要	3
3. 入試状況	5
4. 教職員名簿	9
5. 委員会活動	12
6. 教育活動	
6-1 学部	17
6-2 大学院	
▶高度実践看護コース	34
▶高度実践助産コース	41
▶高度実践公衆衛生看護コース	47
▶看護科学コース	52
▶博士課程	53

## 巻頭言

看護師国家試験の結果について 100%合格を目指してもなかなか達成できない。神頼みをしたいたいと思ひ達磨に願いを込めて購入し、関係者で片方に目を入れて貰い、皆であれこれと知恵を絞り、工夫を凝らして日々達磨を視れば祈るような気持ちとなって、学生に期待を込める。教員は学生一人一人の能力に併せて頑張るように指導を重ねている。毎年のように残念というほんの少しの所で 100%に至らない。能力のレベル差はないと思われるが、4年間の学修の差で知識力がついていない人そうでない人の差のような気がする。ここ数年の皆の課題でもある。いつも国家試験合格率 100%は頭を離れない。そろそろ底力を見せる時期かなと思う。

2021 年はコロナ禍 2 年目であったが、教育、研究、社会貢献については、東が丘看護学部はそれなりに努力をしてきた結果が出ている。教員と実習指導者、学生の三者が一致協力し、その成果が見える内容になっている。コロナ禍であっても学生の受け入れを多く対応して頂き気配りの広報であった。更に入試関係、各委員会活動は申し分ない程活発であり、その活動内容は明確である。特に総合型選抜方法を導入し大勢の主体的な学生の確保に向かって一丸となった。また、大学本部の動きに合わせ、調整や各種委員会も教員が組織的に役割・使命を果たし、学部の特徴もより明確になってきた 1 年間である。年報をみると良く理解できるし、変化の激しい前進の一年である。動きは激動であったが有難いことにコロナ感染は少なく、なりを潜めていて下さった。お陰様で臨地実習の実施率も低くはない。

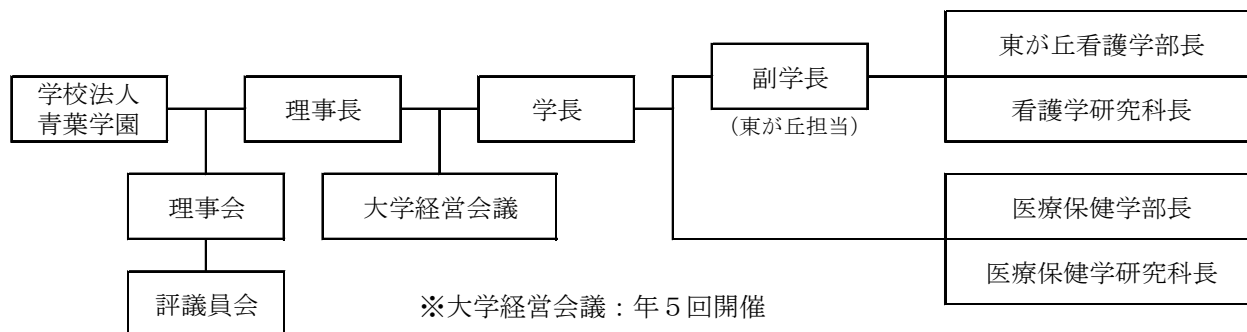
看護教員の業績となる研究活動は、公的研究費の採択率をみれば明確である。東が丘・立川看護学部は本学全体の研究費の採択率の 50%以上となっており、コース別にしてみても両者に遜色なく、その為研究活動も活発である。業績がしっかりと残されている。昨年度も同様に記載したが、全教員の活動記録が年報をみれば見える。一例を述べると、多忙さが教育によるものなのか、研究によるものなのか、社会貢献によるのか良く見えている。学内・外の委員会活動も見える化出来ている。兎に角、年報は教員の活動実績が良く表れており、貴重で素晴らしい記録である。

将に年報は、「継続は力なり」という言葉に尽きる。我が大学の発展の歴史が見え、教員の素晴らしさと凄さがみえる資料である。委員の皆さんの労力に対しては特に感謝を申し上げます。有難うございました。

令和 4 年 5 月 23 日

東が丘看護学部長 山西 文子

# 1. 組織図

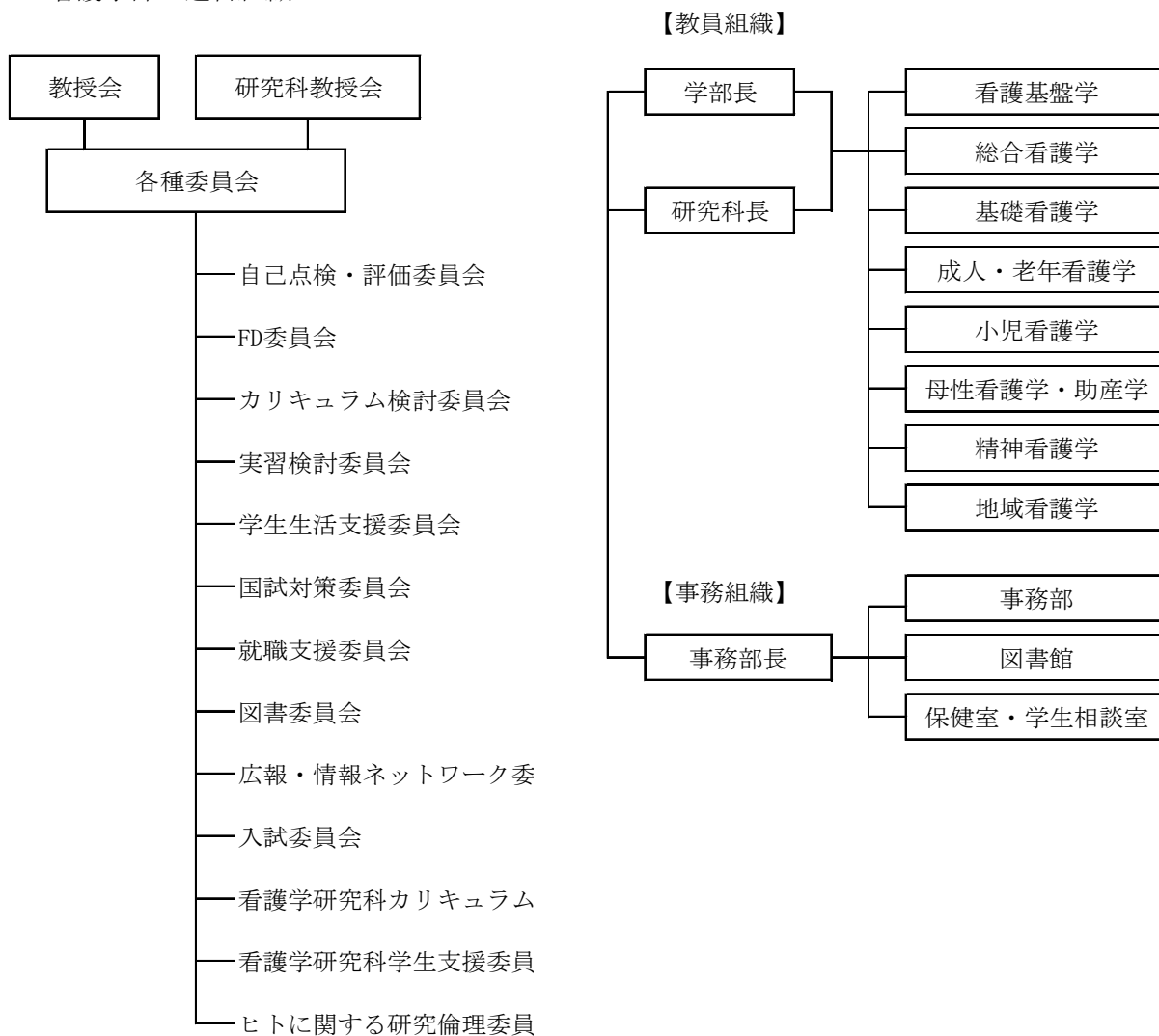


※大学経営会議：年5回開催

※理事会・評議員会：年3回同時開催

※学部長等会議：年11回開催

## 東が丘看護学部の運営組織



## 2. 学内行事の概要

### 2-1. 学年暦

#### 【 前 期 】

#### 4月

- 1日 学内オリエンテーション(1~7日)、新入生  
ガイダンス
- 2日 健康診断
- 7日 入学式
- 8日 前期セメスター授業開始

#### 5月

- 6日 新入生合宿研修(~5/7)中止
- 10日 在宅看護学実習(~7/2)

#### 6月

- 4日 WEB オープンキャンパス(~6/23)
- 7日 看護過程展開実習(~6/18)
- 24日 スポーツ大会 中止
- 27日 ミニオープンキャンパス
- 28日 看護学体験実習(~7/2)

#### 7月

- 16日 WEB オープンキャンパス(~8/31)
- 19日 看護学統合実習(~7/30)

#### 8月

- 6日 夏季休業開始(~9/30 まで)
- 14日 オープンキャンパス
- 23日 入試説明会
- 30日 各論実習-成人看護学実習等  
(R4/2/10)

#### 9月

- ひがしが丘保健室 中止
- 7日 WEB 入試説明会(~10/7)
- 12日 総合型入試説明会
- 21日 WEB 入試説明会(~11/5)

#### 【 後 期 】

#### 10月

- 1日 後期セメスター授業開始  
WEB 学校推薦選抜入試説明会  
(~10/30)
- 3日 学校推薦選抜入試説明会
- 17日 総合型選抜

#### 11月

- 14日 学校推薦型選抜  
医愛祭 中止
- 19日 一般選抜受験者イベント
- 22日 卒業研究発表会
- 29日 老年生活支援実習
- 30日 個別見学会

#### 12月

- 1日 開学記念日
- 10日 卒業生との懇談会(オンライン)
- 20日 個別見学会
- 24日 冬季休業開始(~R4/1/5)

#### 1月

- 25日 一般入学試験 A 日程

#### 2月

- 4日 一般入学試験 B 日程
- 5日 国家試験壮行会(中止)
- 14日 日常生活援助展開実習(~2/18)  
就職支援講座
- 18日 一般入学試験 C 日程

#### 3月

- ひがしが丘保健室 中止
- 16日 学位記授与式・修了式
- 18日 WEB オープンキャンパス(~4/8)
- 27日 オープンキャンパス

## 2-2. オープンキャンパス

7月16日(土)～8月31日(金)WEBでのオープンキャンパスが実施された。

なお、概要は以下の通りである。

- 1) 講演 山西文子
- 2) 就職・国家試験対策 松本和史
- 3) 模擬授業 中島美津子
- 4) 学科紹介 松本和史
- 5) 講義・演習の紹介授業風景(卒論) 基盤・精神・成人老年各領域  
嶋谷圭一(編集)
- 6) サークル・団体 ダカーポ ひいりんぐぼっと 消防団 内山孝子(構成) 原口  
昌弘(構成) 嶋谷圭一(編集)
- 7) 教員の研究活動 竹内朋子 朝澤恭子 日高未希恵
- 8) 高校生向け大学院紹介コンテンツ 鎌田りみ(企画) 嶋谷圭一(編集)
- 9) 住まいのサポート

## 2-3. 東が丘看護学部入試説明会

本年度の入試説明会は、8/23(来学)、9/12(WEB)、10/3(WEB)に実施した。

また、WEB動画配信を9/7～10/7の間実施した。

## 2-4. 個別見学会

下記の日程で個別見学会を実施した。

- ・国立病院機構キャンパス

11/30(火) 16:00～17:30 7名 内容:学科説明、入試説明、キャンパス見学

12/20(月) 16:00～17:30 16名 内容:学科説明、入試説明、キャンパス見学

## 2-5. 公開講座等の開催 (FD企画を含む)

### ① 5.12(月) 9:30～12:00 ZOOM

テーマ:「東が丘看護学部のFDマップ概要説明」

講師:山西 文子(副学長、東が丘看護学部長)他

### ② 5.26(水) 16:30～17:00 ZOOM

テーマ:「東が丘看護学部の教育方針、教育者の使命について」、  
「本学FDマップの概要と活用」

講師:山西 文子(副学長、東が丘看護学部長)、中島 美津子(教授)

### ③ 6.24(木) 16:00～17:00 ZOOM

テーマ:「研究公正について」

講師:大島久二(副学長、大学院看護学研究科長)

④ 7.15(木) 16:30～17:30 ZOOM

テーマ: 「若者の理解や学習者の理解、教育者としての教授法迫及に向けたご講義」

講師: 豊田 英敏 (医療保健学部医療栄養学科 教授)

⑤ 9.16(木) 16:00～17:00 ZOOM

テーマ: 「研究倫理-研究倫理の原点と最新のガイドライン」

講師: 大島久二 (副学長、大学院看護学研究科長)

⑥ 10.28(木) 16:00～17:00 ZOOM

テーマ: 「研究倫理規程と倫理審査」

講師: 大島久二 (副学長、大学院看護学研究科長)

⑦ 2.17(木) 16:00～17:00 ZOOM

テーマ: 「本学の地域貢献について」

講師: 中田太一(東が丘看護学部 事務部長)

## 2-6. 学友会活動

### 1)スポーツ大会

学友会の全学行事である。新型コロナウイルス感染症対策として開催は見送られ中止となった。

### 2)大学祭 (医愛祭)

学友会の全学行事である。新型コロナウイルス感染症対策として両日開催は見送られ中止となった。

## 3. 入試状況

### 3-1. 令和4年度入学者選抜状況(選抜試験は令和3年度に実施)

#### 概要

東が丘看護学部看護学科、大学院看護学研究科の入学者選抜の概略は以下のとおりである。

#### 3-1-1. 東が丘看護学部看護学科

○東が丘看護学部													
試験区分	試験日	定員(A)		志願者数(B)		受験者数(C)		競争倍率(C/D)		合格者数(D)		入学者数	
総合型選抜	10月17日(日)	(-)	8	(-)	101	(-)	99	(-)	4.7	(-)	21	(-)	21
学校推薦型選抜 (指定校)	11月14日(日)	(20)	15	(23)	24	(23)	24	(1.0)	1.0	(23)	24	(23)	24
学校推薦型選抜 (公募制)	11月14日(日)	(20)	23	(56)	56	(55)	55	(1.1)	1.7	(50)	33	(50)	33
大学入学共通テスト 利用入試(前期)	1月15日(土) 16日(日)	(7)	7	(180)	177	(180)	177	(3.0)	3.9	(60)	45	(2)	3
一般選抜A日程入試	1月25日(火)	(15)	15	(201)	153	(198)	152	(3.2)	3.3	(62)	46	(18)	17
一般選抜B日程入試	2月4日(金)	(25)	25	(258)	251	(214)	209	(2.7)	3.2	(80)	66	(22)	16
一般選抜C日程入試	2月18日(金)	(10)	7	(104)	109	(87)	87	(5.1)	5.8	(17)	15	(5)	2
大学入学共通テスト 利用入試(後期)	1月15日(土) 16日(日)	(3)	若干名	(16)	6	(16)	6	(4.0)	3.0	(4)	2	(2)	0
合計		(100)	100	(838)	877	(773)	809	(2.6)	3.2	(296)	252	(122)	116

○ 推薦入試

1) 学校推薦型選抜 (指定校)

(1) 対象

本学を第一志望(専願)とし、下記の入学資格に該当する者

1. 令和4年3月に高等学校(中等教育学校の後期課程を含む。以下同じ。)を卒業見込みで、高等学校長の推薦がある者
2. 高等学校における全体の評定平均値が3.8以上の者

(2) 選抜方法

調査書・小論文・面接を総合的に評価し選抜

2) 学校推薦型選抜 (公募制)

(1) 対象

本学を第一志望(専願)とし、下記の入学資格に該当する者

1. 令和4年3月に高等学校(中等教育学校の後期課程を含む。以下同じ。)を卒業見込みで、高等学校長の推薦がある者
2. 高等学校における全体の評定平均値が3.5以上の者

(2) 選抜方法

調査書・小論文・面接を総合的に評価し選抜



### 3) 総合型選抜

#### (1) 対象

本学を第一志望（専願）とし、下記の入学資格に該当する者

1. 令和4年3月に高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。以下同じ。）を卒業見込みで、3年次1学期または3年次前期までの調査書を提出できる者

#### (2) 選抜方法

調査書・小論文・面接を総合的に評価し選抜

### ○ 一般入試

#### 1) 一般入学試験 A・B・C日程

##### (1) 試験科目

A日程 必須科目 英語（100点）選択科目 数学Ⅰ・数学A、生物基礎・生物、化学基礎・化学、生物基礎・化学基礎から1科目選択（各100点）

B日程 必須科目 英語（100点）選択科目 国語総合（現代文のみ） 数学Ⅰ・数学A、生物基礎・生物、化学基礎・化学、生物基礎・化学基礎から2科目選択（各100点）

C日程 必須科目 英語（100点）選択科目 国語総合（現代文のみ） 数学Ⅰ・数学A、生物基礎・生物、化学基礎・化学、生物基礎・化学基礎から2科目選択（各100点）

#### 2) 大学入学共通テスト利用入学試験 前期・後期

##### (1) 試験科目

必須科目 英語【リスニングを含む】（200点）

選択科目 国語【近代以降の文章】、数学Ⅰ・数学A、生物、化学、生物基礎・化学基礎から2科目利用（3科目以上受験している場合は高得点の2科目を採用（各100点）

ただし、理科を2科目以上選択している場合は、「生物」「化学」の組合せのみ採用となります。

#### 3-1-2. 大学院看護学研究科

- ・前期9月25日(土)及び後期12月4日(土)に実施しました看護学研究科の入学試験結果は、次のとおりです。

修士課程 コース(定員)	出願者数	受験者数	合格者数	備考
高度実践看護コース (20名程度)	55名	54名	26名	1名辞退

高度実践助産コース (10名程度)	18名	17名	7名	内訳 助産師免許取得プログラム 6名(1名辞退) 助産師(有資格者)プログラム 0名
高度実践公衆衛生看護コース (若干名)	7名	6名	3名	
看護科学コース (若干名)	0名	0名	0名	
合計	80名	77名	36名	入学者数34名
博士課程(2名)	1名	1名	0名	
看護学研究科 合計	81名	78名	36名	入学者数34名

※いずれの値も前期及び後期の合算値になります。

○ 選抜方法

[修士課程]

筆記試験、面接及び出願書類を総合して行います。

[高度実践看護コース]

(1) 筆記試験

看護学に関する総合的な基礎知識を問います。(120 分)

必修問題 3 問

(2) 面接試験 1 人 15 分程度

[高度実践助産コース]

① 助産師免許取得コース

(1) 筆記試験

看護学の基礎知識と母性看護学の知識を問います。(120 分)

必修問題 3 問

(2) 面接試験 1 人 15 分程度

② 助産師プログラムコース

(1) 筆記試験

助産学に関する知識と論理的思考力(小論文)を問います。(120 分)

必修問題 3 問(うち 1 問は小論文)

(2) 面接試験 1 人 15 分程度

〔高度実践公衆衛生看護コース〕

(1)筆記試験

看護学に関する総合的な基礎知識を問います。(120 分)

必修問題 3 問 (うち 1 問は小論文)

(2)面接試験 1 人 15 分程度

〔看護科学コース〕

(1)筆記試験

保健・医療分野に関する知識と論理的思考力を問います。

また、一部の問題は、英語の能力を問います。(120 分)

〔辞書(電子辞書は除く) 1 冊を持ち込むことができます。〕

(2)面接試験 1 人 15 分程度

#### 4. 教職員名簿

専任教員	担当領域	氏名	職名	採用等年次
	大学院看護学研究科長	大島 久二	副学長/教授	2. 4. 1 採用
	東が丘・立川看護学部長			
	及び東が丘看護学部長	山西 文子	副学長/教授	25. 4. 1 採用
	看護基盤学	明石 眞言	教授	2. 8. 1 採用
		小野 孝二	教授	25. 4. 1 採用
		小宇田 智子	准教授	22. 4. 1 採用
		日高 未希恵	講師	28. 4. 1 採用
		篠崎 真弓	助教	30. 4. 1 採用
	総合看護学	山西 文子	教授	25. 4. 1 採用
		浦中 桂一	准教授	29. 4. 1 採用
		忠 雅之	講師	3. 4. 1 採用
	基礎看護学	松山 友子	教授	22. 4. 1 採用
		内山 孝子	准教授	2. 4. 1 採用
		高橋 智子	講師	25. 4. 1 採用
		ハーネド 明香	助教	2. 4. 1 採用
		森田 有紀	助手	3. 4. 1 採用
		吉田 貴恵子	助手	1. 7. 1 採用
	成人・老年看護学	竹内 朋子	教授	25. 4. 1 採用
		松本 和史	准教授	27. 4. 1 採用
		原口 昌宏	講師	29. 4. 1 採用
		廣岡 佳代	講師	3. 4. 1 採用
		松田 謙一	講師	31. 4. 1 採用

	井本 由希子	助教	31. 4. 1	採用
	佐藤 由美子	助教	3. 4. 1	採用
	佐藤 琴美	助手	2. 9. 1	採用
小児看護学	中島 美津子	教授	28. 4. 1	採用
	玄 順烈	准教授	26. 4. 1	採用
	山田 恵子	助教	30. 4. 1	採用
母性看護学・助産学	島田 三恵子	教授	3. 11. 1	採用
	平出 美栄子	准教授	28. 4. 1	採用
	朝澤 恭子	准教授	26. 4. 1	採用
	加藤 知子	講師	26. 4. 1	採用
	田辺 洋子	講師	2. 10. 1	採用
	小嶋 奈都子	講師	22. 4. 1	採用
	ゲッケルト博子	助教	2. 4. 1	採用
	鬼澤 宏美	助教	2. 4. 1	採用
精神看護学	田中 留伊	教授	22. 4. 1	採用
	中村 裕美	講師	22. 4. 1	採用
	菅原 裕美	助教	31. 4. 1	採用
地域看護学	大越 扶貴	教授	3. 4. 1	採用
	佐藤 潤	准教授	22. 4. 1	採用
	駒田 真由子	講師	29. 4. 1	採用
	嶋谷 圭一	助教	31. 4. 1	採用
	望月 靖記	助手	2. 4. 1	採用
その他	金子 あけみ	准教授	22. 4. 1	採用

事務職員	役職	氏名
	部長	中田 太一
	主任	齋藤 容子
	主任(大学院担当)	鎌田 りみ
	主任(大学院担当)	菊池 広訓
	職員	岡田 友理
	職員	小宮 咲紀
	職員	佐藤 光伸
	職員	津野 朋子
	図書館司書	町田 玲彦
	図書館司書	飯嶋 正敏
	図書館司書	加藤 亜樹

図書館司書	遠藤 一恵
図書館司書	栗原 真理
学生相談	原田 直美
保健室	戸谷 益子
放射線看護研修センター	今井 麻依子

## 自己点検・評価委員会

### 構成員

中島美津子（委員長）、朝澤恭子（副委員長）、浦中桂一、加藤知子、日高未希恵、松田謙一、中田太一（事務部）、菊池広訓（事務部）、

### 活動内容

令和3年度自己点検・評価報告書の作成を行った。

また、令和2年度の年報として東が丘看護学部における委員会活動、教育活動、業績等に関して取りまとめ、本学ウェブサイトへアップロードを行った。

## FD委員会

### 構成員

中島美津子（委員長）、朝澤恭子（副委員長）、浦中桂一、加藤知子、日高未希恵、松田謙一、中田太一（事務部）、菊池広訓（事務部）、

### 活動内容

1) FDの企画として、「新任教員研修」「FDについて」「研究倫理Ⅰ」「大学生の学びの現状と課題」「研究倫理Ⅱ」「研究倫理Ⅲ」「本学の地域貢献」のテーマで開催した。研究倫理の全コース受講で研究倫理教育受講確認書の申請を受け付けた。

2) FDマップの活用

FDマップのフェーズと目標の位置づけを示し、教職員に活用を推進した。活用度をアンケートで確認した。FDマップのフェーズに対応するFDを企画した。

## 東が丘看護学部カリキュラム検討委員会

### 構成員

松山友子（委員長）、竹内朋子（副委員長）、山西文子（学部長）、大越扶貴、小野孝二、島田三恵子、田中留伊、中島美津子、平出美栄子、中田太一（事務部）、齋藤容子（事務部）

### 活動内容

年間の実施計画に沿って活動した。特に、カリキュラムについては、2022年度の改正に向け、全教員を対象に説明会を開催した。また、留年生に不利益がないように新旧カリキュラム対比表を作成した。授業運営については、学生の学びや交流が継続できるように対面授業を配置し、遠隔授業を中心に実施記録を残した。

次年度は、新カリキュラムにおける変更科目や新規開講科目の円滑な運営に向け、授業レベルでの検討を行う予定である。

## 実習検討委員会

### 構成員

竹内朋子（委員長）、内山孝子（副委員長）、朝澤恭子、浦中桂一、玄順烈、佐藤潤、中村裕美、松田謙一、篠崎真弓、菊池広訓（事務部）

### 活動内容

本委員会は、東が丘看護学部の看護学実習教育の質向上を目指し、看護学実習年間計画の立案、臨地実習要項の作成、看護技術経験表の作成と集計、インシデント報告の集計と分析、実習施設対象の看護学実習説明会の開催、独立行政法人国立病院機構 東京医療センター看護部との看護学実習連携会議の共催等を実施した。さらに今年度は、COVID-19 拡大下における実習運営に関して、委員会での情報共有や実習施設との調整も行なった。

## 学生生活支援委員会

### 構成員

田中留伊（委員長）、玄順烈（副委員長）、小宇田智子、日高未希恵、小嶋奈都子、駒田真由子、高橋智子、原口昌宏、忠雅之、鬼澤宏美、菅原裕美、戸谷益子（保健室）、中田太一（事務部）、岡田友里（事務部）

### 活動内容

#### 1) 健康管理

学生の健康状態の把握と感染症予防や拡大防止対策を重点項目として活動を行った。

#### 2) 学年担任・コンタクトグループ

1 年次生の合宿研修は新型コロナウイルス感染症対策のため実施されなかった。また、コンタクトグループミーティングは前期・後期ともに ZOOM で開催した。

#### 3) 学友会活動の支援

スポーツ大会や大学祭（医愛祭）等は新型コロナウイルス感染症対策のため実施されなかった。また、定例となっている東京医療センターと協同イベントは七夕飾りつけのみ実施された。

#### 4) ボランティア活動

ボランティア活動推進のために目黒区と連携を強め、様々な取り組みを予定していたが、新型コロナウイルス感染症対策のため実施されなかった。

#### 5) 学生対応

学生の相談（学習に関すること、将来の進路に関すること等）や学業継続（休学・退学等）に関する事項について対応した。

## 国試・就職対策支援委員会

### 構成員

松本和史（委員長）、島田三恵子（副委員長）、玄順烈、小宇田智子、中村裕美、高橋智子、小嶋奈都子、忠雅之、嶋谷圭一、ハーネド明香、中田太一（事務部）、齋藤容子（事務部）、岡田友理（事務部）

### 活動内容

国試対策として、全学年に国試ガイダンス、業者模擬試験（4年生6回、1-3年生1-2回）を実施した。4年生に対し、後期に外部講師による講習と教員による講習を開催し、ゼミ単位で個別の学生への支援を行った。就職支援活動として、3・4年生への就職ガイダンス、外部講師を招いた就職支援講座（インターンシップ対策講座、面接対策講座、履歴書・自己紹介書の書き方講座、小論文対策講座）、卒業生との懇談会を実施した。

## 図書委員会

### 構成員

明石眞言（委員長）、朝澤恭子（副委員長）、駒田真由子、松田謙一、山田恵子、町田玲彦（図書館）、加藤亜樹（図書館）、菊池広訓（事務部）

### 活動内容

- 1) 学外から利用できる電子ジャーナル・書籍等のサービスの継続・拡大を実施し、ビジュアルクラウドの継続を図った。
- 2) 購読雑誌の動向調査を行い、電子で閲覧できない雑誌に変更した。
- 3) 除籍図書リスト確認と各領域への照会を行い、配架スペースの確保に努めた。
- 4) 東が丘図書館の利用実績および各種データベースへのアクセス状況を取りまとめた。
- 5) ウェブ会議・メール会議で実施し、効率的な委員会運営を行った。

## 広報・情報ネットワーク委員会

### 構成員

小野孝二（委員長）、松本和史（副委員長）、内山孝子、廣岡佳代、田辺洋子、デッケルト博子、嶋谷圭一、菊池広訓（事務部）、鎌田りみ（事務部）

### 活動内容

- 1) 大学・大学院案内  
令和3年度の本学の首都圏版パンフレットの作成に携わった。
- 2) 広報イベント
  - (1) オープンキャンパス（来学開催）：6/27（日）、8/14（土）、3/27（日）
  - (2) 大学説明会（Live開催）：7/10（金）～7/14（火）
  - (3) オープンキャンパス（Web開催）：7/16（金）～8/31（火）
  - (4) 入試説明会（来学開催）：8/23（月）



(5) 入試説明会 (Live 開催)・個別相談会 (Online) : 9/12 (日) , 10/3 (日)

(6) 入試説明会 (Web 開催) : 9/7 (火) ~10/7 (木)

(7) 学科見学会 (来学開催) : 11/30 (火)、12/20 (月)

### 3) その他

(1) 学報「こころ」を 2 回発行し、教育活動や学生支援の PR 活動を行った。

(2) 正則高等学校の 2 年生を対象に出張講義 (11/11 (木)) を実施した。

## ヒトに関する研究倫理東が丘・立川小委員会

### 構成員

大島久二 (委員長)、小宇田智子 (副委員長)、小野孝二、久保恭子、竹内朋子、  
中島美津子、松山友子

### 活動内容

東が丘と立川キャンパスにおける卒業研究、課題研究、特別研究のうち、ヒトを対象とする課題の審査を行った。計 46 題の審査を行った。また、書類内容の統一と精緻化を行い周知した。

## 入試委員会

### 構成員

非公開

### 活動内容

東が丘看護学部、大学院看護学研究科の入学試験に係る事項について協議・審議し、試験の円滑な実施を図った。

## 国際交流委員会

### 構成員

朝澤恭子 (委員長)、金子あけみ (副委員長)、廣岡佳代、井本由希子、菅原裕美

### 活動内容

ハワイ大学研修、オーストラリアグリフィス大学研修の現地参加は中止となり、9 月にオーストラリア：グリフィス大学オンライン研修、3 月にハワイ：シャミナード大学オンライン研修が開催された。研修内容の検討、日程調整、参加の PR、申請手続き、事前研修支援等を実施した。

## 看護学研究科カリキュラム委員会・学生支援委員会

### 構成員

大島久二（委員長）、山西文子（副委員長）、大越扶貴、島田美恵子、田中瑠伊、  
浦中桂一、平出美栄子、中田太一(事務部)、菊池広訓（事務部）、鎌田りみ  
（事務部）

### 活動内容

看護学研究科修士課程と博士課程に関する教育計画、実施、評価等に係る質向上のための検討を行った。各コースのカリキュラムや教育・研究に関する取り組みとその評価、単位取得状況等を確認し、研究科教授会への報告及び学籍異動に係る審議等の案件の決定を行った。

高度実践看護コース・高度実践助産コース・高度実践公衆衛生看護コースでは各々21名、7名、1名が修了認定された。博士課程では4名が修了認定された。

## 【教育活動】 東が丘看護学部

### 【看護基盤学領域】

#### 1. 教育方針

広い視野に立った物の見方を学ぶために人間の生命を自然科学的、倫理的、あるいは社会学的等、多面的な側面より論じることのできる能力を有する看護師の育成を目指す。

#### 2. 科目名

##### 1) 自然科学の基礎 1年次前期

(1) 担当教員 小宇田智子、小野孝二、日高未希恵

##### (2) 教育内容

専門基礎分野、専門分野における高度な専門科目を履修するために必須である生物、化学、物理、数学等に関する基礎的な知識を学習することを目的とした。今年度は遠隔授業での対応とした。学生によって各内容の理解度に大きな差があるため、基礎的な内容について、理解しやすいようにイラスト等を利用して資料を作成した。また、学生の大きな負担にならない程度に、講義ごとに復習の問題を出題し、理解度を確認した。学生の個別の質問にはメールで応じて、全学生が最低限の必要知識を得られるように対応した。

次年度も学生間で知識の差があると予想される。そのため、学生には予習および復習を促し、授業で使用するスライドはよりわかりやすいものとなるよう工夫し、高度な専門科目に対応できるような知識の習得を目指す。

##### 2) 臨床検査学演習 1年次前期

(1) 担当教員 小野孝二、明石眞言、小宇田智子、日高未希恵、篠崎真弓

##### (2) 教育内容

診断・治療の基礎として活用されている臨床検査の原理を理解し、その意義を学ぶことを目的として演習および ICT 講義を実施した。組織学検査、心電図検査、血液検査、尿検査、染色体検査、放射線検査の各項目につき、試料の観察や測定等を通して、その基本原理、解剖生理と病態に関する理解を深めた。

次年度は、病院内で実施されている各種臨床検査について、実験室での演習をより関連付けるような工夫を凝らしたい。

##### 3) 臨床薬理学演習 2年次後期

(1) 担当教員 小宇田智子、矢田部恵

##### (2) 教育内容

1年次生で得た薬理学の知識をもとに、治療対象となる患者の状況（年齢、性別、生理的状态など）による薬物動態の知識、作用と薬効について理解させることを目標とした。主に、臨床現場で使用されている薬物の使用目的、作用機序、有害作用・禁忌などに関して看護師が知っておくべき事柄を、随時、解剖生理学や疾病の成立の知識を確認しながら概説した。臨床的な投与時の看護のポイントなどについても取扱い、より臨床に近い形での理解が深まるようにした。

次年度は、臨床的な投与時の看護のポイントなどについても取扱い、より臨床に近い形での教育を目指す。

##### 4) 公衆衛生学 2年次後期

(1) 担当教員 明石眞言、金子あけみ、日高未希恵

##### (2) 教育内容

コロナ禍にあったため、一部の講義はwebとなった。不幸な事態ではあるが、毎日のテレビ、新聞、ネットからは、公衆衛生学に関わる内容が流され、生きた題材には事

欠かない中で講義は行われた。公衆衛生学は人間の集団を扱う領域であり、日常社会に結び付くように心がけて講義を行った。疫学や厚生労働省から出される統計等公衆衛生学的な手法・内容から見えてくることは多く、新型コロナ対応は、まさに公衆衛生学そのものである。

次年度は、学生が現実の社会で起きていることを、公衆衛生学の視点で議論できるような講義を目指したい。

#### 5) ボランティア論 2年次後期

(1) 担当教員 小宇田智子

(2) 教育内容

多様なボランティア活動についての理解を深めると同時に、医療・保健・福祉に関するボランティア活動の事例を通して、専門職としてのスキルを生かしたボランティア活動、ボランティアコーディネーションのあり方等を考察できることを目標とし、講義を展開した。

次年度も、実際のボランティア活動を通してコミュニケーション能力、多様な問題に柔軟に取り組む姿勢等が醸成されることを目指す。

#### 6) 看護研究の基礎 3年次前期

(1) 担当教員：小野孝二、竹内朋子、松本和史、小宇田智子

(2) 教育内容

エビデンスに基づく看護に資する看護研究を実施する素地を形成することを目標に講義を実施した。看護学における研究の意義、研究を開始するための基礎となる情報の集め方から始め、研究手法の分類と進め方、倫理的配慮、研究のまとめ方にいたるまでの一連のプロセスについて概要を講義した。

次年度も、より具体的な研究(例えば卒業研究)を題材として取り上げるなど、より具体的な事例に即した講義を目指す。

#### 7) 英語論文のクリティーク 3年次後期

(1) 担当教員 明石眞言 各領域担当教員

(2) 教育内容

英語原著論文の検索法を示し、各領域に関連し、学生が興味のある英語原著論文を選定した。論文の内容は、各領域における卒業研究に関連のあるものとした。今年度はweb上での発表となったが、指定された英語論文を精読し、卒業研究グループの中で発表と討論を行った。

来年度は、各自の研究内容と関わりを明確化し、論文から得られた内容を研究に結び付ける工夫をしたい。

#### 8) 解剖生理学 I 及び II 1年次生前期

(1) 担当教員 明石眞言、小宇田智子、大島 久二、武田純三、非常勤講師

(2) 教育内容

人体の基本的な構造と機能を知り、身体の中で起きていることを学ぶことを目的としている。同時に身体の異常の基礎についても学ぶことが求められる。解剖学の専門家に

よる人体構造の基礎となる骨及び筋肉、神経解剖生理学、臨床家による各臓器・組織の解剖生理の講義が行われた。限られた時間で、膨大な内容が含まれるため、特に重要と思われる内容を効率的な講義にまとめた。全ての臓器・組織の講義を行うことができ、学生は系統的に学ぶことができた。

次年度は、学生がより系統的に学ぶことができるように、各臓器・組織間の関係を考慮し、講義を行う順序を設定する。

## 【総合看護学領域】

### 1. 教育方針

アクティブラーニングの導入科目を積極的に増やし、本学のアクションプランの目標100%達成に向かって領域担当の科目は努力する。学生には自ら考える、考えさせる対応を工夫し、時々共有する。また、出来るだけ現実に近い形で知識の統合、判断の根拠、思考のプロセスを繰り返す、技術の実施、評価というPDCAサイクルを廻せるように支援する。また、チームの一員としてのセルフマネジメントの重要性も再確認する機会であり、臨地実習最後の纏めである。臨床への第一歩がスムーズに踏み出せるように4年間の纏めでもあり、社会への橋渡しの位置づけである。学生には、実習病院の一つの病棟の全ての媒体を用い、必要な情報を主体的に収集し、計画し、実践し、評価していくプロセスを体験し、その重要性・大切さを認識させたい。

### 2. 科目名

#### 1) 看護政策論（選択科目）4年次前期

- (1) 担当教員 山西文子
- (2) 教育内容

今年度は看護行政等に関心の高い学生が選択し約87名であり積極的であった。職能団体の会長からの具体的政策立案、実施、評価。一人の国会議員による基礎的な知識と実際の政策決定過程に携わった実践、議員立法の講義を拝聴した。更に後半は現在の社会問題となっている看護問題についてデベート形式で意見を出し合い積極的な参加であった。

#### 2) 統計学 2年次前期

- (1) 担当教員 浦中桂一
- (2) 教育内容

統計学の基本的な性質や考え方を理解し、データ分析の統計手法を学ぶことを主な目標とした。質的データや量的データをどのように取り扱うのか、科目開始時に履修生対象のアンケートを行い、演習データを作成した。身近な事象に関するデータにて興味を引き、アクティブラーニング手法を用いて統計ソフトや表計算ソフトの実践演習を行った。今後は事前学修、事後学修の徹底を図っていく必要がある。

#### 3) 政策医療論 2年次後期

- (1) 担当教員 金子あけみ、非常勤講師（前田光哉）
- (2) 教育内容

我が国の医療政策及び政策医療について様々な統計資料を用いて説明した。特にCOVID-19パンデミック等の社会情勢の変化を踏まえ、今後の医療提供体制、地域包括ケアシステムについて解説した。

また、看護の専門職化の歴史、質の向上に関して視聴覚教材を活用した講義を行い、保健師助産師看護師法の法的課題と関連団体の政策についても説明した。次年度も医療に関わる政策について批判的思考ができるよう教授する

4) NP 論 (選択科目) 4 年次前期

- (1) 担当教員 浦中桂一 山西文子  
(2) 教育内容

4 年次生の殆どの学生が選択し、授業にも積極的に参加した。前半は我が国における NP 教育の実態及び世界各国における NP 教育・役割・活動の実際についての概要を講義し、その後は我が国において大学院 NP コースを修了し現場で活躍している NP の講師に活動の実際を講義頂き、質疑応答の時間を設けた。今後は講師を適宜変えて多種多様な NP 活動の実際について触れてもらい、学生のキャリア開発に対する動機づけの機会とする。

5) 看護職とキャリア形成 4 年次後期

- (1) 担当教員 金子あけみ  
(2) 教育内容

看護専門職として成長するプロセスとキャリア形成に関して、Life Career と Work Career の両面から概説した。キーワードとして、プロフェッショナルリズム、生涯発達、リフレクション等を取りあげ理解を深めた。また、新人看護師の初期研修の DVD を視聴し、リアル世界をイメージさせた。コロナ禍でグループ討議・発表会は出来なかったが、次年度はグループ討議によりアクティブラーニングを実施する。

6) 看護学統合実習 4 年次前期

- (1) 担当教員 山西文子 浦中桂一 忠雅之  
(2) 教育内容

本実習は、4 年次までの全ての看護学実習の内容や看護マネジメントの学習を統合した実習として位置付けている。実習は学内実習と臨地実習からなり、学内実習では 4 月～7 月にレポート作成・プレゼンテーション、看護技術演習を計画実施し、臨地実習は 6 施設で 7 月～8 月に実施した。来年度は 9 日間の臨地実習期間となる。実習施設が 1 施設増えるため、学生の実習目標達成に向け、実習前の臨床側との十分な調整が課題である。

7) 卒業研究 4 年次通年

- (1) 担当教員 山西文子 浦中桂一  
(2) 教育内容

10 名程度のグループごとに、研究テーマを設定し、研究計画の立案から成果発表までの一連のプロセスを学修する。2021 年 11 月 2 日に体育館において「卒業研究発表会」を開催し、3 年生も含め全教員参加の下、学会形式で発表が行われた。学生同士の質疑応答も活発に行われていた。発表内容を一部サテライトで中継したが回線の不具合で共有できなかった。今後は PC 環境を改善して円滑な会の運営を行う。各グループのテーマと構成メンバーは以下の通り。

看護基盤学領域

レチノイン酸およびアスコルビン酸の創傷治癒過程における線維芽細胞への影響

北崎五陸、後藤麻裕、近藤真菜、鈴木満理奈、高田あかり、中村涼子、濱崎実秋、原舞由花

原子力作業者の放射線被ばく影響に関する文献レビュー

稲嶋ひめな、大野茜、大場由里奈、木下茉奈、木村沙夏、小坂橋舞華、小林亜沙海、増澤紅音、安田愛理

総合看護学領域

マスクとフェイスシールド装着の有無および話し方による聞き取りやすさに関する研

究

出井由衣、小島一輝、須藤萌桂、高橋幸希、本多彩夏、宮本実玖、山田未夢、  
湯淺のりか、吉沼 怜那

成人・老年看護学領域

ケリーパッド使用下でのウルトラファインバブルシャワーを用いた洗髪の有用性の検討ー洗淨剤を用いた洗髪と洗淨剤を用いない洗髪の比較を通してー

小林潤哉、宍戸由梨奈、天野由花子、大石麻由、小池美空、武井萌香、西野有里加、  
日野瑞希、脇山葵

看護師によるエンゼルケア実施後の遺体トラブルの発生頻度と葬儀業者からの要望

吉村祥、青木桂子、荒木佑、川野凜子、今野真理子、酒井瞳、三戸彩花

精神看護学領域

我が国における統合失調症者のセルフスティグマに関する概念分析

浅野雛乃、丸山夏帆、石成沙衣、柴垣夏海、地木樂咲良、須田奏美、戸田和沙、  
元田沙耶、森山かれん、山崎菜央

基礎看護学領域

ディスポーザブルタオルを用いた背部清拭に蒸し時間および広げ方・当て方の工夫を加える効果の検討～皮膚表面温度・主観的評価の比較～

小平智尋、落合有咲、佐藤愛、佐橋芽依、宮川日和、村松若奈、山井穂乃華、吉田麗

看護学生への看護技術教育における動画教材の特徴～車椅子移乗の援助技術に焦点を当てて～

太田楓音、梶岡真奈、神村瑞希、川端陽菜、竹山千尋、永田明日香、松井彩、宮原真衣

母性看護学領域

看護系女子大学生の月経カップに関する実態および月経教育の課題

松藤有香、池田ひより、高木優希、中川朝比、中野杏佳、晩田有咲、古川真帆、  
前川桃香、茂木梨里香

看護系女子大学生および母親における HPV ワクチン接種とヘルスリテラシーの関連

小西美菜子、清水萌、大出菜々、小島咲織、小島結衣、佐藤那海、高橋愛弥香、武藤楓、矢嶋 瞳

地域看護学領域

新型コロナウイルス（COVID-19）感染下におけるフィジカルディスタンスと感染拡大の地域性の違いについて

稲葉美菜、河内すみれ、小森かの、古谷内朱乃、澤木希羅、篠原めいや、高津麻文乃、  
土屋佳奈

ヤングケアラーの他者との関わりで得られる肯定的な感情ーヤングケアラー経験者が伝えたいメッセージー

加藤沙彩、大湊らいむ、附田まみ、今井梨紗子、大谷真衣、大根田夢、長嶋紗生、  
和田夏初

## 【基礎看護学領域】

### 1. 教育方針

看護学の学習の基礎として、「何故そうするのか」「何が最善か」を自問自答する力の育成をめざす。また、学生が看護の奥深さや楽しさに触れると同時に、専門的な学習への動機づけとなるような授業展開を探求する。

## 2. 科目名

### 1) 看護学概論 1年次前期

(1) 科目担当 松山友子

#### (2) 教育内容

看護および看護に含まれる基本概念（人間・環境・健康）について理解するとともに、学生自身が今後の看護学の学習に向けた自己の課題を明確にすることを目的に授業を展開した。毎回、事前課題を発表する場を設けた他、看護の記録映像を題材に、看護の活動や役割をグループで検討・発表した。学生からは他者の意見から学びが広がったとの意見が聞かれた。次年度も意見交換の場を設け、自らの意見を述べることを課題としたい。

### 2) 看護実践技術論Ⅰ（日常生活における援助技術と判断） 1年次前期

(1) 科目担当 松山友子、内山孝子、高橋智子、ハーネド明香、吉田貴恵子、森田有紀

#### (2) 教育内容

看護技術の基本的な成り立ち及び人間の生活の特徴に関する理解に基づき、看護場面に共通する技術（感染予防、ボディメカニクス）や人間の生活過程を整えるために必要な看護技術（療養環境の調整技術・活動・休息・安全・安楽・衣生活・排泄・食事を整える技術）について、体験学習を踏まえた講義やグループワーク、演習を対面で実施した。次年度は、演習内容・方法の評価・精選を行い、ICTの有効活用も含めた方法を検討したい。

### 3) 看護実践技術論Ⅱ（治療、処置における援助技術と判断） 1年次後期

(1) 科目担当 内山孝子、松山友子、高橋智子、ハーネド明香、吉田貴恵子、森田有紀

#### (2) 教育内容

無菌操作、与薬、注射、静脈血採血の技術、浣腸、膀胱留置カテーテルを取上げ、これらの技術の中核となる「安全」の確保に向けて原則を遵守する重要性を強調した。特に演習においては、COVID-19感染予防策を講じつつ、対面にて、侵襲的な看護技術を安全に実施するための解剖学的な根拠や安全な看護技術の提供を支える看護師の倫理性を強調した。次年度は、DX、ICTを用いた学習用教材の工夫を課題としたい。

### 4) 看護実践技術論Ⅲ（看護技術の統合） 1年次後期

(1) 科目担当 高橋智子、内山孝子、ハーネド明香、森田有紀、吉田貴恵子

#### (2) 教育内容

清潔の援助技術を例に対象の個別性に合わせた援助の必要性と方法の判断、看護計画の立案・実施・評価について教授した。演習では、看護技術の統合を意図し、模擬カルテを活用して患者の清潔援助計画を立案し、実施・評価を行った。実施・評価のポイントを示すとともにルーブリック評価を用いて、評価の質向上に努めた。来年度



も、ICT を活用した指導方法を工夫し、学生が対象の個別性に合った援助を検討・実施できるようにしたい。

5) ヘルスアセスメント 1年次前期

(1) 科目担当 高橋智子、松山友子、内山孝子、ハーネド明香、森田有紀、吉田貴恵子

(2) 教育内容

対象者の健康問題を把握するために必要な観察やコミュニケーション、バイタルサインの測定および報告方法について、解剖生理等の基礎知識に関する事前学習課題と結びつけながら教授した。血圧測定の技術では、演習のほか、練習機会を設けるとともにDVDを用いて自己学習ができるように学習環境を整えた。来年度は、原則を遵守したバイタルサイン測定および報告の技術習得、患者に対するコミュニケーションの充実を課題としたい。

6) フィジカルアセスメント 1年次後期

(1) 科目担当 内山孝子、松山友子、高橋智子、浦中桂一、ハーネド明香、吉田貴恵子、森田有紀

(2) 教育内容

フィジカルイグザミネーションの実践方法、分析・判断、報告内容について教授した。COVID-19 感染予防対策を講じつつ対面授業と演習を展開した。自己学習の理解度を学生自身が評価できるようICTを用いた小テストを実施し、講義では積極的に視聴覚教材を講義に活用した。また、高度実践看護コース大学院生による「呼吸音の聴取」に関する授業を取り入れ、学生の主体的な学習の動機付けとした。新カリキュラムに伴い来年度の開講なし。

7) 看護過程と看護方法論 1年次後期

(1) 科目担当 松山友子、内山孝子、高橋智子、ハーネド明香、吉田貴恵子、森田有紀

(2) 教育内容

看護過程の5段階をさらに11のステップに分け、ステップごとに、事前課題(ワークシート・事例検討)→授業(グループでの意見交換・事例の参考例の提示と学生の疑問点への解説)→事後課題(事例検討の修正:グループまたは個人)という流れで授業を展開した。反転授業の要素を取り入れた方法により、学生は授業での理解が深められたと述べていた。次年度は、個人での学びに加え、グループでの学びの共有の強化を課題とする。

8) 看護理論 2年次後期

(1) 科目担当 高橋智子、内山孝子、吉田貴恵子

(2) 教育内容

看護実践の基盤となる代表的な12名の看護理論の概要およびその特徴について、講義およびグループワーク討議を実施した。学生は、グループ討議および授業毎の事後

学習課題を実施することにより、学習内容に対する理解を深め、看護理論を実践に活用する意義について自らの言葉を用いて述べることができていた。来年度は、教材の提示方法や発表方法を工夫することにより、事前学習課題の充実および討議時間の確保に努めたい。

9) 看護教育学 4年次後期

(1) 科目担当 松山友子

(2) 教育内容

大学における看護学教育に関わる制度やカリキュラムに関する学習を進めた。本学のカリキュラムと授業設計を確認すると共に、「学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標」を参考に自らの4年間の学びを評価した。学生は、大学で看護・看護学を学ぶ意義を見直し、今後の課題を述べていた。また、授業テーマに沿ったレポートの記載が学びの整理になったとも述べており、次年度もテーマや文字数を検討の上継続したい。

10) 看護学体験実習 1年次前期

(1) 科目担当 高橋智子、松山友子、内山孝子、ハーネド明香、鬼澤宏美、篠崎真弓、菅原裕美、佐藤琴美、森田有紀、吉田貴恵子

(2) 教育内容

2つの実習施設の協力を得て、看護師の役割・活動に関する臨床講義をライブ配信した。病院の環境および看護活動については、実際の医療現場の見学や指導者からの説明により体験的に学習した。学生は、最終日の成果発表を通して、看護・人間・健康・環境に関する講義・演習の学びを具体化させることができていた。来年度は、健康問題を持ちながら地域で生活する人々にも学生が関心を向けられるように成果発表のテーマを精選したい。

11) 日常生活援助展開実習 : 1年次後期

(1) 科目担当 高橋智子、松山友子、内山孝子、日高未希恵、松田謙一、井本由希子、鬼澤宏美、篠崎真弓、嶋谷圭一、菅原裕美、デッケルト博子、ハーネド明香、佐藤琴美、森田有紀、吉田貴恵子

(2) 教育内容

新型コロナウイルスの感染拡大により教育用カルテを活用し、患者事例を用いた代替実習を実施した。学生は患者1名を受持ち、患者の個別性に応じた援助の実践を目指して計画を立案し、実習室で模擬患者へ実施、および援助について評価した。教員が患者・指導者役を演じることにより、学生は緊張感を持ち援助を実施できていた。来年度は、実習施設とも連携して学生がより実践に近い状況で学べる環境づくりを課題としたい。

12) 看護過程展開実習 : 2年次前期

(1) 科目担当 松山友子、内山孝子、高橋智子、廣岡佳代、日高未希恵、井本由希子、

鬼澤宏美、篠崎真弓、菅原裕美、デッケルト博子、ハーネド明香、山田恵子、佐藤琴美、吉田貴恵子、森田由紀

## (2) 教育内容

新型コロナウイルスの感染拡大により、ICTを活用した代替実習を実施した。NHO 東京医療センターより紹介を受けた2名の患者を受け持ち、看護過程を展開した。実施は実習室で受持ち患者を想定して行った。患者情報は教育用電子カルテを使用し、朝・午後に実習指導者からWeb会議システムを活用して指導を受けた。学生は日々思考を整理・深化させることができたと評価していた。次年度も状況に応じ、実習施設と連携した実習を検討したい。

## 【成人・老年看護学領域】

### 1. 教育方針

成人期と老年期を一連のライフサイクルとして捉え、幅広い年齢層における人々を対象とした看護実践能力の養成を目指している。アクティブラーニングを重視し、“tomorrow’s Nurse”の資質の錬成につながる講義・演習・実習を展開していきたい。

### 2. 科目名

#### 1) 成人看護学概論 1年次後期

(1) 担当教員 竹内 朋子、松本 和史

#### (2) 教育内容

成人期にある人々の身体・心理・社会的特徴と、成人看護学の基礎を理解することを目標とした。自己の経験を学習資源にできるような事前課題を提示したうえで、成人期の健康に関する疫学データ、生活習慣と健康問題の関連、成人看護に関する主要な諸理論、成人期の経過別看護の特徴に関してについて講義した。

成人看護学の導入となる科目であるため、次年度も成人看護の基礎を修得できる講義を目指したい。

#### 2) 老年看護学概論：1年次後期

(1) 担当教員 竹内 朋子、松田 謙一、廣岡 佳代

#### (2) 教育内容

老年期にある人々の身体・心理・社会的特徴と、老年看護学の基礎を理解することを目標とした。高齢者の健康と暮らしに関する動向、高齢者の社会保障制度の基礎について講義した。また、加齢が日常生活に及ぼす影響を体感できるよう、高齢者模擬体験演習を取り入れた。自己の老後の生活をイメージすることや、老年観をディスカッションする課題を提示した。

次年度も老年期にある人々を多角的に理解できるような講義を目指したい。

#### 3) 慢性期看護論：2年次前期

(1) 担当教員 松本 和史、廣岡 佳代、井本 由紀子、佐藤 琴美

## (2) 教育内容

慢性疾患をもつ対象者の受容過程をふまえ、セルフケア能力を高めるための援助について理解することを目標とした。器官系統別に代表的な慢性疾患とその看護について講義した。関連する解剖生理のテストを取り入れ、基礎医学と看護がつながるよう促した。視聴覚動画による事例演習や看護技術演習も行い、実践的な理解を深めた。

次年度も看護を実践的に理解できるよう、座学と演習を組み合わせた授業を行っている。

## 4) 老年看護実践論：2年次前期

(1) 担当教員 松田謙一、廣岡佳代、井本由希子、佐藤琴美

### (2) 教育内容

高齢者看護の理解に向けて、講義と演習を行った。講義では、各回の導入時に、高齢者に健康障害が生じやすい理由や疫学的データを示し、老年看護学を学修する意義を理解できるようにして動機づけを図った。演習では、講義で得た知識を活用する能力を身につけるために、生活機能のアセスメントおよび NANDA-I 看護診断を用いた看護過程展開演習を中心に展開した。

次年度も高齢者に対する看護実践能力の基盤となる授業展開を目指したい。

## 5) 家族看護学：2年次後期

(1) 担当教員 松本 和史

### (2) 教育内容

病気や障害が家族に与える影響と家族が障害や患者に与える影響について理解し、家族を単位として展開する看護について学ぶことを目標とした。家族看護に関する講義に加え、家族看護事例の演習をグループワークで行い、考えを他の学生と共有することで、家族の複雑な問題を多角的に考える力を養った。家族看護の実践者による講義も取り入れた。

次年度も、講義とグループ演習を取り入れた授業構成とする予定である。

## 6) 老年生活支援実習：2年次後期

(1) 担当教員 松田謙一、松本和史、廣岡佳代、井本由希子、佐藤琴美

### (2) 教育内容

介護保険施設で暮らす高齢者の生活と看護師の役割を理解することを目的とした。今年度は、臨地実習(2日間)と学内実習(7日間)で実習を展開した。臨地実習では、施設の役割や構造の理解、コミュニケーションを通して高齢者の理解を図った。学内実習では、レクリエーション発表会やコミュニケーション技法の実際について学修した。

次年度も施設で生活する高齢者の看護の実際とあり方を検討できる授業展開を目指したい。

## 7) 急性期看護論：3年次前期

(1) 担当教員 松本 和史、竹内 朋子、松田 謙一、廣岡 佳代

(2) 教育内容

急性期にある対象の特徴と生命維持、術後合併症予防、残存機能を活かした看護について理解することを目標とした。周術期やクリティカルケアの看護について講義を行い、侵襲による身体的、心理的、社会的変化や好発する合併症の予防について理解できるようにした。授業内容に関する小テストを行い、復習ができるように工夫をした。次年度も、急性期看護に必要な看護の知識を深める授業を展開していく予定である。

8) 成人・老年看護実践論：3 年次前期

(1) 担当教員 松本 和史、竹内 朋子、松田 謙一、廣岡 佳代、井本 由希子、佐藤 琴美

(2) 教育内容

成人期・老年期の患者の看護過程、および患者の生命維持、QOL 向上のために必要な看護援助方法を理解できることを目標にした。看護過程に関しては、急性期、慢性期、終末期、老年期の経過別の授業を配置することで、成人期・老年期の看護実践の理解を促した。看護技術演習に関しては、酸素療法、吸引、一次救命処置などの看護技術の演習を対面で行った。

カリキュラム改正に伴い、本科目は来年度から「成人看護実践論」となる。

9) 成人看護学実習Ⅰ（急性期）：3 年次後期

(1) 担当教員 松本 和史

(2) 教育内容

周術期看護とクリティカルケア看護を学ぶために、外科系病棟、手術室、救命救急センターで行った。病棟では、周術期の患者への看護を行った。手術室では、手術や看護師の役割等を見学した。救命センターでは、重症患者へ看護ケアを実施した。一部の期間で行われた代替実習では、バーチャルシミュレーターや視聴覚教材を用いて、実践能力が養えるようにした。

次年度も急性期看護を総括的に学べるよう同様の実習形式を予定している。

10) 成人看護学実習Ⅱ（慢性期）：3 年次後期

(1) 担当教員 廣岡 佳代、佐藤 琴美

(2) 教育内容

東京医療センターと東京病院にて行った。COVID-19 感染対策のため 7 クール中 2 クールが代替実習となった。臨地実習では慢性疾患をもつ患者 1 名を受持ち看護展開するほか、退院支援看護師の講義を取り入れ、多角的に学べるよう工夫した。代替実習では、教育用電子カルテを用いた看護過程展開にあわせ、ロールプレイを実施した。

次年度も患者のセルフマネジメント能力を引き出すための看護実践能力を高める内容としたい。

11) 成人看護学実習Ⅲ（終末期）：3 年次後期

(1) 担当教員 竹内 朋子、井本 由希子

## (2) 教育内容

終末期患者の全人的苦痛を緩和するための看護と家族へのグリーフケアを実践した。また、臨死期・臨終・死後の看護を実践または見学した。実習やカンファレンスを通して、患者、家族、実習グループメンバー、医療スタッフたちの死生観に触れ、看護職としての自己の死生観を深化させた。一部の代替実習では、Advance Care Planning に関する演習を実施した。

次年度も、終末期にある患者と家族への緩和ケアを実践する能力を養成していきたい。

## 12) 老年看護学実習Ⅱ（病と生きる高齢者への看護）：3年次後期

### (1) 担当教員 松田 謙一

### (2) 教育内容

急性期病院の高齢入院患者を受け持ち、看護を実践した。今年度は、臨地で実習を行えない期間もあったため、その場合には、代替実習を行った。看護過程の展開では、高齢者を全人的に捉えたいうえで、看護の必要性を見出せるように実習指導者と連携した。代替実習では、実際の受け持ち患者を想定し、立案した看護計画を一部実践した。

次年度も高齢者に対する看護実践能力を修得できる実習展開を目指したい。

## 【小児看護学領域】

### 1. 教育方針

健康・不健康を問わず、子どもとその家族・取り巻く社会を理解し、発達段階に応じた専門的知識に基づく技術の実践できる能力を養うことを目的とし小児看護学概論・小児看護実践論・小児看護学実習の3科目の構成。

### 2. 科目名

#### 1) 小児看護学概論：2年次後期

##### (1) 担当教員 中島美津子、玄順烈

##### (2) 教育内容

小児各期の成長・発達理論、小児医療の歴史的変遷、倫理、理念および身体機能を学び、現代の小児看護の役割と課題を明確にすることを目的とした。講義は対面講義中心とし、授業で毎回グループワークを実施。子どもを取り巻く社会的情勢を盛り込んだ外部講師からのリアルな現場の話も組込んだことで、毎回の授業評価及びアンケートでもグループでの学びの共有や生の講義が好評であった。次年度も社会変化に則した講義展開としたい。

#### 2) 小児看護実践論：3年次前期

##### (1) 担当教員 中島美津子、玄順烈、山田恵子

##### (2) 教育内容

子どもの病状や経過、子ども特有の症状に応じた看護実践に必要な基礎的知識を学び、子どもの健康障害の回復や成長発達の促進に向け、子どもとその家族の援助方法を理解することを目的とした。講義は対面中心、急性期から終末期までの経過別、障害のある

子どもとその家族の看護などの事例、及び事例に想定される技術演習を実施。遠隔実演での技術評価とした。次年度は実習に繋げられるような新事例とその技術演習としたい。

### 3) 小児看護学実習：3年次後期

(1) 担当教員 玄順列、中島美津子、山田恵子

(2) 教育内容

小児看護実践に必要な基礎的能力の理解と実践を目的とした。実習は、東京医療センター5B病棟、成育医療研究センター、東埼玉病院（障害児〔者〕病棟）の3施設使用。1週間病棟1週間は子どもの理解を目的に世田谷区立保育園で実習した。指導者と教員や多職種とのカンファレンスから子どもが示す反応の意味、子どもの力を発揮させる援助の工夫、家族との情報共有方法、非言語的コミュニケーションなどの実際を学んでいた。

## 【母性看護学領域】

### 1. 教育方針

女性のライフサイクル（乳幼児期・思春期・成熟期・更年期・老年期）およびマタニティサイクルにある妊娠・分娩・産褥・新生児の生理・病態と母子およびその家族への援助理論と方法について学ぶ。

### 2. 科目名

#### 1) 母性看護学概論 2年次後期

(1) 担当教員 朝澤恭子、平出美栄子、小嶋奈都子、鬼澤宏美

(2) 教育内容

内容は、母性の概念、セクシュアリティ、リプロダクティブヘルス/ライツ、母性看護の歴史と母子保健統計、女性のライフサイクル各期の健康問題と看護であった。Covid-19の感染防止のため、オンラインと対面を併用した。講義の他に事例検討、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等のアクティブラーニングを用いた。次年度も講義内容と教材を精選し、ICT活用とアクティブラーニングの実施に取り組む。

#### 2) 母性看護実践論 3年次前期

(1) 担当教員 朝澤恭子、小嶋奈都子、鬼澤宏美

(2) 教育内容

内容は、主に妊娠期・分娩期・産褥期のある女性と新生児に対する看護であり、Covid-19の感染防止のため、オンラインと対面を併用した。授業は、講義と演習により構成した。講義の他に事例検討、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等のアクティブラーニングを用いた。母性看護技術演習では確認テストも実施した。次年度も講義内容と教材を精選し、ICT活用とアクティブラーニングの実施に取り組む。

#### 3) 母性看護学実習 3年次後期

(1) 担当教員 朝澤恭子、小嶋奈都子、鬼澤宏美

(2) 教育内容

東京医療センターおよび玉川病院において臨地実習を実施し、Covid-19の感染防止のため代替実習も併用して90時間実施した。特に、産褥期のケアにおいて、学生は1組の母子を受け持ち、看護過程の展開を実施すると共に、看護実践として母子の健康状態の観察、褥婦に対する癒しケア、新生児の沐浴またはドライテクニクを行った。次年度は新生児の沐浴、分娩見学等の貴重な体験がより多く実施できるよう、調整する。

#### 4) 疾病と治療Ⅳ 2年次前期

(1) 担当教員 朝澤恭子、金子あけみ、斉藤史郎

(2) 教育内容

内容は、内分泌疾患、女性生殖器疾患、泌尿器疾患における病態生理と治療、看護であった。解剖学、病態生理学等の知識を想起させ、関連づけて体系的に学ぶように計画した。講義では、病態生理の図解、反復強調、動画や静止画の視聴、ミニテスト、国家試験問題の解説等の工夫をした。乳房モデルを用いた自己検診体験などのアクティブラーニングも取り入れた。次年度も知識の定着を促す工夫をし、アクティブラーニングを実施する。

### 【精神看護学領域】

#### 1. 教育方針

精神・身体・知的を含む三障害の概念や特性の理解を目的とし、歴史的背景や基礎的知識、看護援助の習得に関するカリキュラムを実施している。障害者を取り巻く現状や課題に、主体的な言動ができる態度を身につけてほしいと願っている。

#### 2. 科目名

##### 1) 看護倫理 1年次後期

(1) 担当教員 田中留伊、朝澤恭子、玄順烈、中村裕美、菅原裕美

(2) 教育内容

本科目は看護実践における倫理の重要性や倫理的課題の解決方法を理解し、人権擁護の視点から、看護師としての責務をはたせる専門職の育成を目的としている。医学的知識や実習経験が少ない1年次後期科目のため、毎回の授業ではわかりやすい事例や身近な問題を提示し、倫理的問題に対する関心を高められるような工夫を行った。また、今年度もほぼ遠隔授業のため、リアクションペーパーを求め、一方向の授業にならないように心掛けた。

##### 2) 臨床コミュニケーション論 2年次前期

(1) 担当教員 田中留伊、中村裕美、菅原裕美

(2) 教育内容

自己のコミュニケーションについて洞察および自己啓発していく重要性を認識することを目的とした科目である。日常的な場面のコミュニケーション技術について、陥りがちな課題に焦点を当てながら、段階的に実際の臨床場面での効果的なコミュニケーションを考察できる構成とし、主体的に参加できるように、ワークシートを用いた体験型授業展開を行った。次年度以上も、コミュニケーションが上手くいくことだけにとらわれず、専門的で相手の立場に立った自分らしいコミュニケーションを常に模索していきけるような授業展開を心掛けていきたい。

##### 3) 精神看護学概論 2年次後期

(1) 担当教員 田中留伊、中村裕美、菅原裕美

(2) 教育内容

初学者であるため、できる限り難しい専門用語を用いず、精神看護について関心が持てるように心がけた。こころの働きや精神的健康、障害の概念や障害者の歴史的背景が理解できるように、教科書やオリジナルのパワーポイントを用いながら授業を行い、健



康レベルに応じた人間理解を深め、精神障害者の健康増進・ノーマライゼーションを推進するために必要な基礎的知識を習得できるよう展開した。学生が主体的に参加できるように、授業内で発言できる機会を設けたり、リアクションペーパーを書いてもらうなどの配慮を行った。次年度も引き続き上記の取り組みを行っていききたい。

#### 4) 精神看護実践論 3年次前期

(1) 担当教員 中村裕美、田中留伊、菅原裕美

(2) 教育内容

精神的健康に障害を持つ対象を理解できるように、主な精神疾患や特徴的な症状について、オリジナルのパワーポイントや教科書を用いて授業を展開した。また、精神障害のある対象の支援に必要な基本的な看護技術が学べるように個人課題として看護過程を展開させ、全体で発表会を行いアクティブラーニングを取り入れることで学びを深めた。各授業の最後にリアクションペーパーを提出させ、次回の授業で学生の理解しにくい点を補足、フィードバックできるような工夫を行った。次年度以降もこのような取組を継続していく予定である。

#### 5) 障害者看護論 3年次後期

(1) 担当教員 中村裕美、田中留伊、菅原裕美

(2) 教育内容

精神・身体・知的の三障害を持つ対象を理解できるように、オリジナルの資料や視聴覚教材を用いて授業を展開した。進行性筋ジストロフィー、重症心身障害、神経難病などを抱える人々の具体的な看護実践や生活の質を高める支援の方法については、臨床で看護を実践している講師を招き、生きた看護体験を学べるよう授業を行った。各授業の最後にリアクションペーパーを提出させ、次回の授業で学生の理解しにくい点を補足、フィードバックできるような工夫を行った。次年度は、自己の障害者観をより深めることを目的としたグループワークを取り入れていきたい。

#### 6) 精神看護学実習 3年次後期

(1) 担当教員 田中留伊、中村裕美、菅原裕美

(2) 教育内容

本実習では、精神障害を持って生きる人を包括的に理解するとともに、精神障害者の自立および自己実現に向けた援助を通し、必要な看護が実践できる基礎的能力を育成することを目指した。本年は、COVID-19の影響を受け、一部学内での代替実習となった。臨地実習では、学生は1人の受け持ち患者を通して看護過程の展開を行った。また、電気けいれん療法の見学や作業療法に参加したことで、精神医療の実際を知るとともに、保健医療福祉チームの現状や課題等について考えることができた。代替実習では、実習目標が到達できるよう内容を工夫した。実習指導者協力のもとオンラインによる臨床講義を行って頂くことで学びを深めた。実習最終日は、自らの精神障害者観を明らかにし、看護師の役割と課題についての考えを深める機会とした。今後も、実習指導者や担当教員の意見を反映させ、効果的な指導を検討していききたい。

### 【地域看護学領域】

## 1. 教育方針

地域看護学領域では、地域で暮らす様々な健康段階にある人々が主体性をもち生活するために必要な支援について、理論や技術および諸制度を通して学ぶことを目的とする。科目は、地域看護学と在宅看護学で構成される。

### 1) 災害看護学 2年次後期

(1) 担当教員 佐藤潤、太田慧、嶋谷圭一、望月靖記、駒田真由子、大越扶貴

#### (2) 教育内容

災害医療の概念と展開、災害時の看護の役割を理解し、災害時の社会ニーズに即した看護職の機能について学ぶことを講義した。また、災害時の包帯法の演習についてVODを用いて自主的に繰り返し学習できるよう工夫を行った。

次年度は、社会情勢を踏まえて感染を含めた災害対応について含めた講義となるように検討していきたい。

### 2) 疾病予防看護学 2年次後期

(1) 担当教員 駒田真由子、嶋谷圭一、佐藤潤

#### (2) 教育内容

プライマリヘルスケアやヘルスプロモーションの基本的考え方、Social determinants of healthと健康増進施策、健康格差について、最新の法改正や世界における課題についても含めて講義を構成した。ナッジ理論についても講義し、健康行動の変容に活かす必要性や方法について考え、学んでもらうことに努めた。構成の変更により昨年よりも学生の理解度が高くなっていると感じたため、次年度は、さらに理解度が高められるように展開したい。

### 3) 自立支援教育論 2年次後期

(1) 担当教員 佐藤潤、駒田真由子、嶋谷圭一

#### (2) 教育内容

様々な健康課題を抱えた対象に対して、課題解決に向けた様々な理論を理解し、自立支援へとつなげる具体的な手法を講義で紹介した。今年度は大学生を対象として設定した健康教育に学生が取り組み、グループでWebコンテンツを作成した。

次年度は、講義時間とグループワークの時間割合の見直しを行い、より学生が主体的に学べる構成としていきたい。

### 4) 在宅看護学概論 3年次前期

(1) 担当教員 大越扶貴、佐藤潤、望月靖記

#### (2) 教育内容

在宅看護の基盤となる教育の動向および法制度の変遷を踏まえ、看護過程に用いるICF理論や家族発達理論等についてペーパー事例を通して実践的に学ぶことを目的とした。また家族介護者理解を深めるために、介護離職、ヤングケアラーなどの時事的問題を取り上げ、看護職としての介護者支援のあり方を提示した。

次年度も今年度同様、リアクションペーパーによる授業に対する質問・意見の把握とフィードバックに努めたい。

### 5) 在宅看護実践論Ⅰ 3年次後期

(1) 担当教員 大越扶貴、佐藤潤、駒田真由子、嶋谷圭一、望月靖記

#### (2) 教育内容

神経難病・がん等医療依存度の高い事例、認知症など社会的問題を抱える事例を用い、既習の知識の統合と応用が図れるようシラバス構造を工夫し演習を行った。またDVD視聴（住環境が療養者や介護に与える影響）や事例を通して、アセスメント技術の向上を図ったほか、アドバンス・ケア・プランニングやリスクマネジメントの理解を促した。

次年度は、学生の意見を踏まえて演習時間を十分に取り、フィードバックすることに努

めたい。

#### 6)在宅看護実践論Ⅱ 4年次前期

(1)担当教員 大越扶貴、佐藤潤、望月靖記

(2)教育内容

主に実習に向けての準備として、介護保険におけるケアマネジメントおよび脳梗塞のペーパー事例を通して在宅看護過程の展開技術を身につけるための演習を行った。COVID-19の影響で演習方法が限られた上に、2～3コマ続きの演習が週2回以上入るなど、学生の集中力や学びの順序性という観点からも多大な課題を残した。

次年度も、COVID-19の影響が予測されるため、演習の順序性と内容の見直しを図りたい。

#### 7)在宅看護学実習 4年次前期

(1)担当教員 大越扶貴、佐藤潤、駒田真由子、嶋谷圭一、望月靖記

(2)教育内容

療養者・家族が自立・自律した生活を営むために必要な保健・医療・福祉の連携の実際を学び、地域包括ケアシステムの中の看護の役割を考察することを目的として代替実習(地域包括ケア・訪問看護体験演習(ロールプレイ)、看護過程展開演習(オンライン)、実習指導者の講義、の4構成)を行った。学生においては、対象理解に対する事前準備が十分とは言えない場面も散見し、課題が残った。次年度は事前課題等の改善を図りたい。

## 【教育活動】大学院看護学研究科

修士課程（高度実践看護コース、高度実践助産コース、高度実践公衆衛生看護コース、看護科学コース）及び博士課程

### 【高度実践看護コース】

#### 1. 教育方針

クリティカル領域における診療看護師（NP）の役割を理解し、専門性の高い、高度な実践力をもって役割を遂行できる能力を習得した診療看護師を育成することを目標としている。チーム医療の一員として患者の状況・病態を的確に把握し、自ら考え、判断し、安全性を確保した上で、必要な診療行為・ケアが確実に提供でき知識・技術・態度を習得する。今年度は、演習、実習の一部を、本コースの修了生（診療看護師：NP）で、臨床現場で活躍している診療看護師（NP）が分担し、年2回開催した臨床教授会にも、一昨年度から臨床実習指導者として参加した。

#### 2. 科目

##### 1) クリティカルNP特論 1年次前期

(1) 担当教員 山西文子、浦中桂一、忠雅之、武田純三、鈴木美穂

##### (2) 教育内容

NPを導入している先進国、とくに米国におけるNPの現状等を把握するために、米国で実践活動をしているNPやNPと活動した経験をもつ医師等の講義を受け日本における診療看護師の現状および課題等について理解を深めた。統合実習の前後にて特定行為に関する手順書を作成し、医師も含めたスーパーバイズを受けた。診療看護師（NP）を取り巻く行政や各学会の動向について適時、学生に情報提供および指導内容に含めていく必要がある。

##### 2) 人体構造機能論 1年次通年

(1) 担当教員 小宇田智子、松本純夫、石志紘、今西宣晶

##### (2) 教育内容

診療看護師（NP）に必要な科学的根拠に基づく医学的な判断と問題解決能力、医療技術の発展に対応できる能力の基礎を身に着けるために、周術期、生命危機期などのクリティカル領域における病態生理、疾病の理解の基礎となる人体の機能や構造に関する基礎的知識を教授した。医学専門的な思考を統合し、特定の行為を行えるための能力を構築した。

##### 3) クリティカル疾病特論 1年次前期

(1) 担当教員 大島久二、山西文子、浦中桂一、牛窪真理、小林佳郎、矢野尊啓、池上幸憲、川口義樹、吉川保、白石淳一、安富大祐、樫山幸彦、門松賢、浦上秀次郎、菊池真大、山根章、小山田吉孝、中村芳樹、尾藤誠司、尾本健一郎、鈴木亮、森伸晃、岩田敏

##### (2) 教育内容

クリティカル領域において頻度の高い疾患について、医学的根拠に基づく判断能力と問題解決能力を修得するために、各疾病の病因、病態生理等の基礎的な知識を学んだ。具体的な授業展開は、グループ毎に課題症例を設定し、文献的な検討を行いながら、講師から指導

を受け、プレゼンテーションを行い、発表後に講師から指導をうける形式で行った。さらに学生の学修効果を高めるためには、事前学修、事後学修の徹底を図る必要がある。

#### 4) 診察、診断学特論（包括的健康アセスメント） 1年次前期

(1) 担当教員 大島久二、山西文子、小野孝二、尾藤誠司、上野博則、樺山幸彦、栗原智宏、白石淳一、渡邊清司、長谷川栄寿、樋口順也、菊池真大、武山茂

##### (2) 教育内容

患者の病態に対応した症状アセスメント、診察ができるための知識を習得することを目的にした科目である。診察、生理学的諸検査で得られた所見等を用いて、診断が確定できる能力を修得することができた。個々の患者に対応した的確な診察の方法、診断のために必要な臨床検査の選択、検査結果の解釈、撮影から読影迄のプロセスと医師による読影法などを学び、診断のプロセス等を実際のデータ等を使用して理解を深めることができた。

#### 5) フィジカルアセスメント学演習 1年次前期

(1) 担当教員 浦中桂一、忠雅之、小山田吉孝、池上幸憲、安富大祐、鄭東孝、森岡秀夫

##### (2) 教育内容

患者の健康問題を解決する上で必要とされ、身体的・包括な機能評価のためフィジカルイグザミネーションについて、学生がインストラクターとなってグループ学習を展開し、GWの検討結果をプレゼンテーションし、ディスカッションするアクティブラーニングをオンライン授業にて展開した。来年度は前半のまとめにて臨床推論の要素をより多く取り入れて身体診察する時間を設けて、実践に則した演習とする計画を入れる。

#### 6) 臨床推論 1年次前期

(1) 担当教員 大島久二、浦中桂一、尾藤誠司、鄭東孝、山下博、鈴木亮、南修司郎、安富大祐、太田慧、栗原智宏、矢野尊啓、辻崇、樋山光教、吉田哲也、野田徹、込山修、門間哲雄

##### (2) 教育内容

クリティカル領域で遭遇する症状や状態に応じた臨床推論ができるよう、その過程を学び、それを裏付けるためのフィジカルアセスメント・検査を行い、症状に応じた的確な判断・臨床推論ができるための知識・技術を習得する。臨床推論の実際について、事例を用いて医師の思考過程についても理解を深める。最も多い時間をかけて学修するように臨床教授の医師も積極的に協力してもらい、実習時に繋がるような指導をしてもらっている。

#### 7) 診断のためのNP実践演習 1年次後期

(1) 担当教員 浦中桂一、山西文子、浦中桂一、忠雅之、樋口順也、鈴木亮、太田慧、鄭東孝、尾藤誠司、安富大祐、池上幸憲、栗原智宏、辻崇、早川隆宣、高以良仁

##### (2) 教育内容

クリティカル領域において対応する可能性の高い患者のフィジカルアセスメントができ、必要とされる臨床検査の選択を安全かつ確実に実践するための知識、技術の修得を目的とする。患者の実際の画像を用いて画像診断の進め方、トリアージの概念、機能、方法を学ぶ学生たちが診療行為(特に省令に定められた特定行為)毎の手順書を作成し、臨床実習の際の資料として活用し統合実習の際の指導医師の理解も深まりつつある。

#### 8) 臨床薬理学特論 1年次前期

(1) 担当教員 大島久二、浦中桂一、廣田孝司、青山隆夫、大島信治、池上幸憲、吉川保、川口義樹、森伸晃

(2) 教育内容

本科目はクリティカル領域で使用頻度の高い薬物療法について確認し、各種薬物と生体との反応機序、薬物の効果に個人差が生じる要因等について理解し、安全な治療を進めるために必要な知識を身に付けることを目標とする。外部講師による講義で薬事法を含む薬物の安全管理と処方について理解を深め、更に、臨床現場の専門医から指導頂いた。学生には苦手意識が見られるが、動機づけはされたので、今後は各学生の個人学修に拠る。

9) 治療のためのNP特論 1年次後期

(1) 担当教員 大島久二、浦中桂一、青山康彦、吉川保、川口義樹、大石崇、小山田吉孝、中村芳樹、大迫茂登彦、石志紘、矢野尊啓、尾藤誠司

(2) 教育内容

クリティカル領域の患者に対する治療法およびその適応について科学的根拠に基づいて理解する科目である。治療の生体へのメリット、デメリットを理解し、治療の立案、変更、終了などの判断が的確に実行できるための知識を修得することができた。消化器系手術、呼吸器系手術、脳の手術、心・大血管系の手術を取り上げ、手技に関する基本的事項、輸血、感染予防などを専門医から直接指導を受けることができた。

10) 治療のためのNP実践演習 1年次後期

(1) 担当教員 浦中桂一、山西文子、忠雅之、JNP、池上幸憲、小井土雄一、佐々木毅、森伸晃、太田慧、木下貴之、宮田知恵子、小山田吉孝、吉川保、栗原智宏、落合博子、浦上秀次郎、小山孝彦、若林和彦、川口義樹、鄭東孝、安富大祐、鈴木亮、森岡秀夫、正岡博幸、門松賢、門間哲雄、青木美絵、森泉元

(2) 教育内容

選択した治療法の科学的な根拠を理解し、患者への説明と、患者の同意のプロセス、選択した治療を的確に実行できるための技術を修得する。また、治療の際の診療看護師としての役割と限界を認識することの重要性を学んだ。今後も救急・重症患者の管理方法、集中治療の管理方法、がん化学療法とペインコントロールの方法、人工呼吸器・気管挿管・抜管・縫合・圧迫止血・経腸栄養・中心静脈ライン確保・褥瘡の治療方法などの処置等について、適用する目的、手順を、演習を通して学べるよう学習環境を整えていく。

11) 統合演習 2年次前期

(1) 担当教員 浦中桂一、山西文子、忠雅之、鈴木亮、太田慧、林智史、吉田心慈、冷水育、JNP 中村英樹、石渡智子、高以良仁、山森有夏、森泉元、川名由美子、TA 数名 他

(2) 教育内容

救急外来、内科外来、一般病棟における診療看護師（NP）としての役割や臨床推論を活用した患者の病態や必要な検査・治療について考えることができることをねらいとした。これまでの看護経験と1年間学修してきた医学知識を統合し、外傷事例、心窩部痛事例、呼吸器疾患事例を用い、リーダーシップ、メンバーシップをとりながらチームパフォーマンスが最大限に機能できる基本的能力を養う内容とした。今後控えているOSCE試験や統合実習の良い動機づけとなった。

## 12) 統合実習 2年次通年

(1) 担当教員 大島久二、山西文子、浦中桂一、岩本郁子、早坂奈美、小野孝二、田中留伊、東京医療センター・災害医療センター・東京病院の臨床教授、JNP 実習指導者他

### (2) 教育内容

2年次7月から12月中旬までで17週間、国立病院機構東京医療センター、災害医療センター、東京病院の3施設において、救命救急科、総合内科、外科、麻酔科の各診療科をローテーションし、計17週の実習を行った。実習では、実習指導医の指導のもとで、患者を受け持ち、患者の診察・診断、治療の一連のプロセスを経験した。1年次に講義、演習を通して学んだ知識と技術を統合し、チーム医療の一員としての診療看護師の役割を意識しながら、実習に取り組んだ。学生が作成した38の特定行為の手順書を施設に提示し、省令に定められている38の特定行為の実践経験を積み重ねるなど、積極的に取り組んだ。臨床指導医からの実習の評価も高く、全員が無事実習を修了することができた。統合実習の開始前、および終了後に本学およびオンライン形式において、計4回の臨床教授会を開催し、本学の教員も参加し、意見交換を行った。

## 13) コンサルテーション・インフォームドコンセント特論 1年次後期

(1) 担当教員 大島久二、JNP、尾藤誠司、木下貴之、岩田敏、矢野尊啓

### (2) 教育内容

医療におけるインフォームドコンセントについて理解し、診察で得られた所見、画像診断やデータ分に基づく診断内容について、患者および患者の家族の状況に応じて分かりやすく説明できるように、具体的事例を取り上げて、検討し、その結果を発表し討議を行った。さらに看護におけるコンサルテーションの基本理論とインフォームドコンセントとの関連について考察を実施した。

## 14) チーム医療とスキルミックス 1年次前期

(1) 担当教員 田中留伊、中村裕美、矢野尊啓、中村香代、福長暖奈、島田珠美、平田尚子

### (2) 教育内容

チーム医療におけるスキルミックスの理解を深め、役割分担、協働について見つめ直し、これからのチーム医療を探求的に学ぶことをねらいとした。各医療職の役割について理解が深まるよう、できる限り多職種の講師から情報提供を頂き、意見交換が図れるような内容とした。また、今年度から2名の診療看護師を講師として招き、自らが診療看護師となった際の働き方について、理解が深まるような工夫をした。次年度はカリキュラム変更に伴い、開講しない予定である。

## 15) 医療安全特論 1年次後期

(1) 担当教員 大島久二、山西文子、木下貴之、岩田敏、松浦友一、福元大介

### (2) 教育内容

医療事故等は、日常的に起こる可能性があることを認識し、事故の発生を防止し、患者の安全が最優先事項であることを理解することができた。医療事故を防止するためには、医師の指示を批判的に思考する力、危険を回避するために医療行為の優先度を決定する力、患者に不利益な状況が生じている場合に対象に情報提供できる力、対象が受ける治療や処置に伴う有効性や危険性を患者が分かるように説明できる力などを習得することが必要

であることを学んだ。GWを通して日本で実際にあった特定行為に係る事例を取り上げ、既存の理論を使用して分析し、主要な原因や関連する要因、解決までのプロセスについて検討し、その結果を発表し、全体で討議行う形式で進め、事故の発生を防止するためのさまざまな方策を修得することができた。

#### 16) 政策医療特論 1年次前期

(1) 担当教員 大島久二、山西文子、松本純夫、加我君孝、女屋光基、石原傳幸、當間重人

##### (2) 教育内容

民間病院に任せるだけでは不十分と考えられ、国が医療政策を担うべき医療であると定められている「政策医療」(19の医療分野)について、理解を深めることができた。政策医療を担っている国立病院機構の管理者から、政策医療に関する歴史的経緯と現状、課題、将来展望等の講義を受け、政策医療の対象になっている患者に遭遇した場合の診療看護師として対応について学ぶことができた。

#### 17) 医療倫理特論 1年次前期

(1) 担当教員 大越扶貴、矢野尊啓、早川正祐

##### (2) 教育内容

各コースの看護職が、実践を行う中で引き起こされる倫理的意思決定の場面(事例)を取り上げ、臨床倫理の4分割法等理論を援用しながら検討・考察を行った。また、倫理的課題のある共通事例を用い、各コースをミックスしたグループで多職種および家族等も含め、本人にとって最善の方針について合意する方法を討議し発表を行った。

次年度は、グループで扱う共通事例の工夫を図りながら、各コースの専門的視点を活かした討議ができるようにしたい。

#### 18) ラボラトリー・メソッド特論 1年次前期

(1) 担当教員 小宇田智子、大島久二、明石眞言、小野孝二

##### (2) 教育内容

ヒトの健康像を理解するうえで必要な医学・生物学の知識を得るための手法を指導した。臨床現場で使われている手法や最新の科学研究で使われている手法を用いて、個体・組織・遺伝子および分子レベルでの生命現象について理解できるような授業の工夫をした。来年度も同様の内容で行う予定である。

#### 19) 保健医療福祉システム特論 1年次後期

(1) 担当教員 金子あけみ、清水美智夫、平野方紹(非常勤講師)

##### (2) 教育内容

保健医療福祉分野における法制度及び政策決定プロセスを学習するため、社会保障システムを主軸に様々な統計データを用いて解説した。これらの知識を踏まえ、個々の学生の関心のある保健医療福祉領域のテーマを政策提案として、プレゼンテーション・討論により共有学習を行った。例年、プレゼンテーションの発表会では現行法制に対する批判的吟味やユニークな提案があり、深い学習に繋がっている。次年度も継続する予定である。

#### 20) 看護教育学特論 1年次後期

(1) 担当教員 松山友子、浦中佳一

##### (2) 教育内容



看護基礎教育及び継続教育における教育制度に加え、高度実践看護職として教育的役割を果たすために必要な教育原理・方法を教授した。授業設計の実際では、各自が選択した授業テーマ（講義・演習、OJT や患者指導を含む）について指導計画・指導案を作成し、模擬授業を展開するとともに他者・自己評価を踏まえた今後の課題をレポートにまとめた。次年度は、教育方法に関する基礎知識も含め院生によるプレゼンテーションを計画したい。

21) 看護管理学特論 1年次前期

(1) 担当教員 竹内朋子、松本和史

(2) 教育内容

看護管理の基礎知識、看護管理者の役割・機能を理解することを目標とした。2部構成とし、第1部では看護組織のマネジメント、第2部では看護組織における人的資源のマネジメントについて講義した。これまでに所属した看護組織や実在のリーダーを分析したり、看護管理者としての自己の資質を考察したりする演習も実施した。

次年度も、診療看護師として医療チームをマネジメントするうえで役立つ講義を目指したい。

22) 研究特論 1年次前期

(1) 担当教員 大島久二、田中留伊、朝澤恭子、小野孝二、大越扶貴、小宇田智子

(2) 教育内容

看護研究における初歩的な研究テーマの設定法、データ収集法、解析法、倫理上の配慮などについて具体例を示しながら解説した。本来の研究はどういうものであるかを教授し、また、研究成果を学会あるいは学術誌に発表するためのプレゼンテーションおよび論文作成に関する基本的な手法について習得できた。

23) 原著論文購読 1年次前期

(1) 担当教員 明石眞言、田中留伊、佐藤潤、小宇田智子

(2) 教育内容

英文学術論文特に原著論文を読むための基本的な知識・技術を指導した。特にPubMedを活用しながら、医療・看護分野の英文原著論文を自ら探し、読む力および論理的思考力を養い、専門分野に関する情報収集能力を高められるような授業展開を工夫した。その上で、実際にクリティカル領域に関係した原著英文論文を読み、抄読会を行った。来年度も同様の内容で行う予定である。

24) 課題研究 1年次、2年次通年

(1) 担当教員 大島久二、田中留伊、平出美栄子、佐藤潤、その他全教員

(2) 教育内容

一人ひとりの院生が、個別の研究課題を設定し、関連情報の収集、研究計画の立案、研究実施、研究成果の発表に至る、研究全般にわたるプロセスを担当教員の助言・指導を受けながら実施した。論文の執筆と学会を模した形式の発表会においては抄録やスライドの準備を行い、成果を論文としてまとめる力、プレゼンテーション能力を習得できた。

学生氏名	指導教員	研究課題
KG020001	田中教授	創傷治癒に対するレチノイン酸とアスコルビン酸の複

	小宇田准教授 菅原助教	合的効果
KG020002	玄准教授 日高講師 小嶋講師	在宅医療に関わる診療看護師の経験
KG020003	中島教授 駒田講師	夜勤勤務中にチョコレートを摂取することによる疲労度への影響
KG020004	小野教授 嶋谷助教	気管切開患者の喀痰量と水分出納の関連に関する研究
KG020005	田中教授 小宇田准教授 菅原助教	COVID-19 の影響下における看護系大学生の学習意欲の現状と心理的特性の関連
KG020006	松本准教授 中村講師	看護師臨床推論力尺度 (NCRS; the Nurse's Clinical Reasoning Scale) 日本語版の信頼性及び妥当性の検討
KG020007	松本准教授 中村講師	診療看護師 (NP) を志す者のロールモデルの特徴
KG020008	中島教授 駒田講師	看護職の休憩取得に関連する要因
KG020009	小野教授 嶋谷助教	臨床現場における、医療スタッフの被ばく線量の測定—眼の水晶体の等価線量限度の改正に伴う放射線防護対策に向けて—
KG020010	竹内教授 加藤講師	COVID-19 パンデミック下における看護師の職場ストレスラーと心理的ストレス反応、ワーク・エンゲイジメントとの関連性
KG020011	小野孝二教授 嶋谷圭一助教	高齢者の多疾患併存が死亡リスクに及ぼす影響—全国高齢者パネル調査による後ろ向きコホート研究—
KG020013	佐藤准教授 高橋講師 篠崎助教	慢性心不全患者に対する心不全多職種緩和ケアチームの ACP 支援
KG020014	佐藤准教授 高橋講師 篠崎助教	Nurse Practitioner Primary Care Organizational Climate Questionnaire 日本語版の作成
KG020015	松山教授 ハーネド助教	診療看護師のレジリエンスの特性に関する研究
KG020016	佐藤潤教授 高橋講師 篠崎助教	在宅医療における D to P with N 形態のオンライン診療の実状と看護師に求められるスキル
KG020017	竹内教授 加藤講師	乳房部分切除術を受ける患者に対する PecsIIblock の術後鎮痛効果と術後悪心嘔吐抑制効果

KG020018	小宇田准教授	閉経モデルマウスの高脂肪飼料摂取による肝臓の脂質代謝への影響
KG020019	松山教授 ハーネド助教	COVID-19 感染患者の受け入れ病棟の副看護師長が直面する問題とその対策－第3波後のインタビューを通して－
KG020020	松田講師	患者の治療方針決定の場面における診療看護師の意思決定支援
KG020021	田中教授 小宇田准教授 菅原助教	一定時間のマスク装着によるマスク内環境の変化と皮膚常在菌数の関連
KG020022	朝澤准教授 浦中講師	集中治療室における多職種カンファレンス導入に関する評価-導入前後における患者の集中治療室在室日数の比較

## 【高度実践助産コース】（助産師免許プログラム・助産師プログラム）

### 1. 教育方針

専門性の高い実践力を備え、女性とその家族の生涯にわたる健康を支援できる自律した助産師の育成を目的としている。特に周産期医療における病院内外の助産システムに対応できる専門性の高い助産師の育成を目指す。

### 2. 科目名

#### 1) 助産学概論 1年次前期

- (1) 担当教員 平出美栄子、加藤知子  
(2) 教育内容

助産の基本概念と歴史的変遷から概説し、女性を取り巻く社会背景を認識し、助産師の責務と社会変化の中で期待される役割の重要性、さらに助産師活動に取り組む姿勢と魅力、それらを支えるために必要な看護政策を含め系統的に教授した。次年度も女性を取り巻く課題、母子保健の課題、医療政策・看護政策について講義とディスカッションを織り交ぜながら助産師のアイデンティティを獲得する動機づけとなるよう講義を工夫したい。

#### 2) 生殖機能学（正常・異常） 1年次前期

- (1) 担当教員 加藤知子、山下博、大野暁子、村上功、大木慎也、安達将隆  
(2) 教育内容

女性生殖器の解剖・生理、性周期とその調節機構、配偶子の形成、受胎メカニズム 妊娠の成立から出産までの生殖生理を助産実践が生理学的根拠をもって教授した。今年度は、コロナ感染症対策のためオンラインにて講義を実施し、学生の理解が深まるように動画や映像を取り入れ工夫した。次年度は、助産師国家試験にて出題が増加している妊娠期の異常と婦人科疾患についても強化し講義を工夫する。

#### 3) 助産薬理学特論 1年次後期

- (1) 担当教員 加藤知子、八鍬奈穂、中島研、伊藤直樹  
(2) 教育内容

薬理学の総論と基礎（作用機序、代謝経路、半減期等）、妊産褥婦を対象とした和漢薬物の効用、副作用、併用禁忌、拮抗作用、投与方法、服用方法等について特に漢方を含め

て解説し、妊婦や授乳婦における催奇形性、胎児毒性、授乳中の安全性について薬物使用上の管理および留意点について理解を深めた。今後、正常な妊婦や授乳婦が薬局で手軽に購入することができる薬剤やサプリメントの使用法や注意点等について知識を広げる。

#### 4) 助産栄養学特論 1年次前期

(1) 担当教員 加藤知子、北島幸枝

##### (2) 教育内容

健康な女性の心と身体作りのための食事のあり方や出産適齢期の食生活の現状と課題を通して、健康な女性の身体作りに必要な栄養管理に関して講義した。さらに、日本人の食事摂取基準を基本に、栄養アセスメントと栄養管理方法、乳汁栄養の栄養上の特性と問題点、補完食の進め方について課題に取り組んだ。また、具体的な妊産婦指導に役立つように具体的な減塩食の献立作成と保健指導演習を実施した。次年度も実践への活用を進める。

#### 5) 家族社会学特論 1年次後期

(1) 担当教員 平出美栄子、松島紀子

##### (2) 教育内容

家族社会学についての基礎的な概念や内容を学び、現代の家族問題への理解と社会的対応について整理し、共働き家族、高齢者介護、児童虐待、ドメスティックバイオレンスなどの現代の家族問題について理解を深めた。さらに、リプロダクティブヘルス・ライツに影響を及ぼすジェンダー格差が健康にもたらす影響について学び、家族社会学の視点から人々をエンパワーメントする方策についてオンラインにて学習を試みた。

#### 6) 助産フィジカルアセスメント学演習 1年次前期

(1) 担当教員 加藤知子、忠雅之、服部純尚、松井哲、平出美栄子

##### (2) 教育内容

妊娠・出産・産褥期を通して変化する女性の身体を理解する為に、フィジカルイグザミネーションの技術を用いて周産期の女性の全身の包括的アセスメントができ、正常異常の判断ができる助産実践能力の強化する演習を実践した。また、近年助産師が乳がんを発見することも求められている現状を加味して、乳がんについての基本的な知識についての講義・演習を行った。次年度も診断と実践力を強化できるように事例を工夫する。

#### 7) 助産臨床推論 1年次後期

(1) 担当教員 加藤知子、梅原永能

##### (2) 教育内容

助産師として適切な時期に適切な判断-助産診断力-の修得と向上を目的として臨床推論の知識や思考プロセスについて講義と演習を行った。臨床推論の基本的な概念について講義し、対象の症状・訴えから診断を導き出すための臨床推論の思考プロセスの理解・習得を意図して妊娠期の初期から産褥期によくある主訴を示し、ディスカッションや実践演習を実施した。次年度も今年度の進め方を踏襲して学生の理解度を見ながら検討する。

#### 8) 妊娠期診断・技術学 1年次通年

(1) 担当教員 加藤知子、馬場一憲、田舎中真由美、平出美栄子、小嶋奈都子、デッケルト博子

##### (2) 教育内容

妊娠期における女性の心身の生理的变化と妊娠期に起こりやすい異常、胎児の成長発達に関する知識と妊婦とその家族へのケア技術の習得を目的に講義・演習をした。より良いケアの探究のために理学療法士の専門家による骨盤ケア技術を習得できるよう工夫した。加えて、妊娠期の集団指導としての妊婦を対象にした母親教室を実施し、集団指導の内容だけではなく、教室の開催や運営方法についても実践を通して学びを深めた。

9) 分娩期診断・技術学 1年次通年

(1) 担当教員 平出美栄子、服部純尚、加藤知子、デッケルト博士

(2) 教育内容

分娩期における女性と胎児の生理的プロセスと生理的状态からの逸脱を診断する知識と分娩介助法と助産ケアの技術を習得する目的で、前出の講師陣を構成し、講義・演習を実施した。加えて、女性に寄り添う助産実践力の向上に力を注ぎ、分娩期における助産師の役割について考察できるように工夫した。高度実践助産を目標に、フリースタイル分娩介助の講義・技術演習を取り入れ、未来に求められる助産師の技術講義・演習を展開した。

10) 産褥期診断・技術学 1年次通年

(1) 担当教員 平出美栄子、田舎中真由美、永森久美子、加藤知子、デッケルト博士

(2) 教育内容

産褥期女性の身体的・心理的・社会的変化に応じた助産診断とケアを行うための基本的な知識と技術についての講義、演習を行った。産褥期に必要な保健指導については、指導案を作成し、学生同士で模擬指導を実施した。母乳育児支援としては、宮下助産院を訪問し乳房管理の実際を見学しながら講義を聞いた。次年度は具体的な産褥期の女性のイメージ持ち、ケアを検討できるように講義や演習を充実させていく。

11) 新生児期診断・技術学 1年次通年

(1) 担当教員 加藤知子、加部一彦、藤田恵理子

(2) 教育内容

新生児の生理について理解を深めるため、体温、栄養、電解質、黄疸、吸収と循環、発育、生理機能・運動機能・精神機能の発達について知識を習得するための講義を行った。加えて、出生直後の新生児の計測方法、出生直後の全身観察の技術やNCPRの新生児蘇生法が実践できるように演習を行った。次年度は、胎児期からの予測を踏まえた新生児のケアが実践できるように工夫する。

12) 助産診断・技術学特論 1年次通年

(1) 担当教員 平出美栄子、和田誠司、小松久人、岡田研吉、酒井涼、たつのゆりこ、白井いづみ、高村ゆ希、飯野幸峰、坂本和代、下地富子、加藤知子、デッケルト博士

(2) 教育内容

医学と代替医療を含めた、応用的な助産診断と助産ケアを可能にする知識と技術の習得を目標として、以下の項目についてオムニバスで講義と演習を実施した。①超音波検査の原理と操作方法の基礎、胎児計測の演習、②会陰縫合の講義と演習、③チームステップス、④妊産褥婦への漢方、鍼灸整体、アロマセラピー、アーユルヴェーダなどの東洋医学⑤災害時の助産師の役割とその実践である。

13) ウィメンズヘルス特論 1年次前期

(1) 担当教員 平出美栄子、齋藤益子、片岡弥恵子、早乙女智子、朝澤恭子

(2) 教育内容

セクシュアリティ、リプロダクティブ・ヘルス、女性のライフサイクルに沿った健康問題に対する助産ケアに必要な基礎的能力を養い、女性の健康を支援するための研究・実践への理解を深め、ウィメンズヘルスにおける助産ケアを追究することを目標に展開した。思春期、成熟期、更年期にみられる健康問題、受胎調節の現地指導に必要な原理・知識・技術に関して、講義に加えてプレゼンテーションとディスカッションにて学習を進めた。

14) ウィメンズヘルス演習 1年次通年

(1) 担当教員 平出美栄子、齋藤益子、加藤知子、デッケルト博士

(2) 教育内容

思春期、成熟期、更年期、老年期、周産期のいずれか特定のライフステージにおいてヘルスケアニーズをもつ女性の特徴を分析し、ケアモデルを検討することを目標に展開し

た。思春期を対象に性教育指導案を作成し、都内の中学生を対象にグループ指導を実践した。中学生への指導により、対象の反応を見ながら進めることができ、有用であった。次年度も健康教育プログラムの作成と実践を経験できるように進めていく。

15) 不妊症・遺伝看護学特論 1年次前期

(1) 担当教員 朝澤恭子、小澤伸晃

(2) 教育内容

遺伝看護の対象となる家族性腫瘍、先天異常、神経難病等の患者および生殖医療の対象者と家族に対するアセスメントやケアを理解することを前提に展開した。主な遺伝性疾患の遺伝形式、クライアントが抱える課題と必要なケア、遺伝的な課題を持つ人々へのアセスメントの視点、不妊症の検査および治療、クライアントが抱える課題とケアに関して講義を進めた。不妊治療を受ける人々へのアセスメントの視点を理解できるよう展開した。

16) 助産管理学特論 1年次前期

(1) 担当教員 平出美栄子、柴田仁夫、川岸真由美、野町寧都、市島美穂、宮下美代子

(2) 教育内容

組織管理における基本概念とその変遷から概説し、マネジメントの基本的考え方をドラッカー理論から学び、施設助産管理への応用を試みる講義をした。また、マーケティング理論、医療経済、関連法規及び周産期医療システム、目標管理、総合病院での助産師外来と院内助産（院内助産システム）の実際について、講義及びディスカッション形式で進めた。次年度も学生が主体的に学べるよう授業を計画していきたい。

17) 地域助産活動論 1年次後期

(1) 担当教員 平出美栄子、岡本登美子、土屋清志、宮下美代子、氷見知子

(2) 教育内容

助産師の開業権を生かし母子および家族のニーズに沿った地域医療・地域助産活動について講義を展開した。満足度の高い「いいお産」の実現のために、助産所で取り組まれているフリースタイル分娩の実践力を身につけるために実践し、多岐にわたる助産師の活動について体験的に学ぶ機会を設定した。助産師の開業権を活かした地域での母乳開業助産師を講師に招き（オケタニ式乳房管理法）の講義・演習を組み入れた。

18) 地域母子保健学特論 1年次前期

(1) 担当教員 平出美栄子、福島富士子、佐藤潤、永森久美子、デッケルト博子

(2) 教育内容

地域母子保健の今日的課題について考え、地域で助産師に期待される役割、地域母子保健の活動の実際や産後ケアセンターの活動について講義を行った。学生が考える日本社会における母子保健の今日的課題の現状とこれを解決するために必要だと思われる方策、助産師が地域で果たすべき役割について、討論し学習を深めた。

19) 助産学基礎実習 1年次前期

(1) 担当教員 平出美栄子、加藤知子、デッケルト博子

(2) 教育内容

国立病院機構東京医療センター、国立病院機構相模原病院、国立病院機構埼玉病院、東邦大学医療センター大森病院の4施設での実習おこなった。正常な妊娠・分娩・産褥・新生児期の経過をたどる対象の助産診断、分娩介助の実施、助産過程の展開を目標とした。COVID-19の感染対策強化のために実習内容や夜間のオンコール実習の制限があったが、助産過程の展開をおこない、学生1名について3～5例/人の分娩介助が実施できた。

20) 助産実践力開発実習 1年次後期

(1) 担当教員 島田三恵子、加藤知子、デッケルト博子

(2) 教育内容

国立成育医療研究センター、国立病院機構相模原病院、国立病院機構埼玉病院、東邦大学医療センター大森病院で実習を予定していたが、COVID-19の影響により、一部施設での実習が中止となった。実習施設では、正常な妊娠・分娩・産褥・新生児期の経過をたどる対象の助産過程の展開と実践能力の修得をこの実習目標とした。分娩直後の新生児の計測・NCPRの実践の充実を図り、知識と実践能力の強化が課題である。

#### 21) 助産実践力発展実習 2年次前期

(1) 担当教員 加藤知子、平出美栄子、デッケルト博子

(2) 教育内容

ハイリスク妊婦とハイリスク児を対象とした実習を、国立病院機構東京医療センターの産科病棟・産婦人科外来2週間、国立成育医療研究センターのNICU3日間、国立病院機構神奈川病院の重症心身障害病棟2日間で実習を予定していたが、COVID-19の影響を受け、全てのハイリスク臨地実習は中止となった。そのため、ZOOMによる講義、ハイリスク事例の展開、レポート課題によって実習代替とした。

#### 22) EBP探究論 1年次前期

(1) 担当教員 朝澤恭子、小嶋奈都子

(2) 教育内容

周産期女性の問題・疑問を定式化し、最適な文献を検索し、PICOを用いて批判的吟味を行った。助産領域のRCT論文を用いてPICO、ランダム割り付け、ベースラインの同等確認、Outcomeへの反映、ITT解析、脱落率、マスキング、結果の評価といった手順でクリティックを行い、エビデンスに基づいた結果の理解と批判的吟味を修得した。次年度も研究の学修に活かせるよう、助産領域のRCT論文を用いて実施する。

#### 23) 地域助産学実習 1年次後期・2年次前期

(1) 担当教員 加藤知子、島田三恵子、デッケルト博子

(2) 教育内容

いなだ助産院、さくらバース、とわ助産院、目白バースハウス、森重助産院、矢島助産院の6施設の助産院で実習をした。保健所実習は、大田区、台東区の各保健センターで実施した。地域助産学実習のねらいとして、助産師の役割、母子に関わる姿勢の根源や高度実践助産ケアについて、6週間という実習期間をかけ、これまでの実習を振り返りながら考察し、実践し知識と技術を習得した。次年度も同様により効果的な実習を調整する。

#### 24) 医療倫理特論 1年次後期

(1) 担当教員 大越扶貴、矢野尊啓、早川正祐

(2) 教育内容

各コースの看護職が、実践を行う中で引き起こされる倫理的意思決定の場面(事例)を取り上げ、臨床倫理の4分割法等理論を援用しながら検討・考察を行った。また、倫理的課題のある共通事例を用い、各コースをミックスしたグループで多職種および家族等も含め、本人にとって最善の方針について合意する方法を討議し発表を行った。

次年度は、グループで扱う共通事例の工夫を図りながら、各コースの専門的視点を活かした討議ができるようにしたい。

#### 25) ラボラトリー・メソッド特論 1年次前期

(1) 担当教員 小宇田智子、大島久二、明石眞言、小野孝二

(2) 教育内容

ヒトの健康像を理解するうえで必要な医学・生物学の知識を得るための手法を指導した。臨床現場で使われている手法や最新の科学研究で使われている手法を用いて、個体・組織・遺伝子および分子レベルでの生命現象について理解できるような授業の工夫をした。来年度も同様の内容で行う予定である。

26) 看護教育学特論 1年次後期

(1) 担当教員 松山友子、浦中佳一

(2) 教育内容

看護基礎教育及び継続教育における教育制度に加え、高度実践看護職として教育的役割を果たすために必要な教育原理・方法を教授した。授業設計の実際では、各自が選択した授業テーマ(講義・演習、OJTや患者指導を含む)について指導計画・指導案を作成し、模擬授業を展開するとともに他者・自己評価を踏まえた今後の課題をレポートにまとめた。次年度は、教育方法に関する基礎知識も含め院生によるプレゼンテーションを計画したい。

27) 研究特論 1年次前期

(1) 担当教員 大島久二、田中留伊、朝澤恭子、小野孝二、大越扶貴、小宇田智子

(2) 教育内容

看護研究における初歩的な研究テーマの設定法、データ収集法、解析法、倫理上の配慮などについて具体例を示しながら解説した。本来の研究はどういうものであるかを教授し、また、研究成果を学会あるいは学術誌に発表するためのプレゼンテーションおよび論文作成に関する基本的な手法について習得できた。

28) 課題研究 1年次・2年次通年

(1) 担当教員 大島久二、田中留伊、平出美栄子、佐藤潤、その他全教員

(2) 教育内容

一人ひとりの院生が、個別の研究課題を設定し、関連情報の収集、研究計画の立案、研究実施、研究成果の発表に至る、研究全般にわたるプロセスを担当教員の助言・指導を受けながら実施した。論文の執筆と学会を模した形式の発表会においては抄録やスライドの準備を行い、成果を論文としてまとめる力、プレゼンテーション能力を習得できた。

学生	指導教員	研究課題
KG120001	玄准教授 小嶋講師 日高講師	母乳バンクおよびドナーミルクの普及状況ードナーミルクを必要としている児に届けるためにー
KG120002	玄准教授 小嶋講師 日高講師	乳幼児を持つ保護者の性教育に関する実態調査
KG120003	朝澤准教授 浦中講師 鬼澤助教	ローリスク産婦における非妊時の運動経験による分娩アウトカムの総意
KG120004	中島教授 駒田講師	幼児期の子どもの偏食と養育者の食意識および子どもへの関わりとの関連
KG120005	朝澤准教授	NICU 患児に対する母親の関わりと産後抑うつ傾向の関連
KG120006	平出准教授 内山准教授 デッケルト助教	陥没乳頭の女性への母乳育児支援ーナラティブインタビューによる探求ー



KG120007	朝澤准教授 浦中講師 鬼澤助教	COVID-19 感染拡大に伴う乳幼児をもつ親における仕事と家庭の役割葛藤の関連要因
----------	-----------------------	--

## 【高度実践公衆衛生看護コース】

### 1. 教育方針

本コースでは、理論や実践等を通して、複雑多様化している健康課題や健康危機に対応できる能力を養う。また地域特性を的確に把握し、ヘルスリテラシーやソーシャル・キャピタル等を高められる保健師育成を目指す。

### 2. 科目

#### 1) 公衆衛生看護学概論 1年次前期

(1) 担当教員 大越扶貴、佐藤潤、駒田真由子、嶋谷圭一

(2) 教育内容

公衆衛生看護学の基本的な考え方および地域における看護活動の場と必要性について理解するとともに、保健師という職種に対する理解と関心を醸成しそのあり方を探求することを目的とした。講義は、公衆衛生看護の活動理念や歴史的背景を踏まえ、その活動が職業倫理を前提に法律や政策、理論等に基づいている内容とした。次年度は、公衆衛生看護活動のあり方が探求できるよう先駆的活動事例を含めるなど工夫を図りたい。

#### 2) コミュニティアセスメント論 1年次前期

(1) 担当教員 大越扶貴、駒田真由子、嶋谷圭一

(2) 教育内容

コミュニティアズパートナーモデルを用い、地域診断の基本および方法を学ぶことを目的とした。保健師活動に必要なとされる地域住民の健康や生活状況等、潜在・顕在的なニーズを把握するための情報収集、アセスメント・分析、課題の明確化と課題解決方法などを中心に講義や一部演習を行った。次年度は、本科目とコミュニティアセスメント演習の科目間の連携を充実させ、実習Ⅰの地域診断で知識と技術の統合を図っていききたい。

#### 3) 公衆衛生看護活動論Ⅰ（対象別方法論） 1年次前期

(1) 担当教員 駒田真由子、大越扶貴

(2) 教育内容

母子、小児、成人および高齢者の各ライフステージの公衆衛生活動、感染症、難病、精神、障害などの健康課題別に実施されている公衆衛生看護活動の実態を学ぶことを目標に演習を展開した。次年度もコロナ禍における児童虐待、高齢者虐待など、現在社会で問題になっている事項を含めた講義になるように適宜修正を図っていききたい。

#### 4) 公衆衛生看護活動論Ⅱ（タスク別方法論） 1年次前期

(1) 担当教員 大越扶貴、平出美栄子

(2) 教育内容

公衆衛生看護活動上必要な技術について演習を通して習得することを目的とした。母子・認知症高齢者・難病・精神等の健康課題をもつ事例を使用し、個人、家族、集団をアセスメントする視点や方法について講義・演習を行った。また健康相談や家庭訪問についてはロールプレイを用いスキル向上を図った。

次年度も COVID-19禍の実習内容の限界(家庭訪問等の体験が困難)が予測されるため、本授業の演習の充実を図っていく。

5) 地域保健学特論 1年次前期

(1) 担当教員 大越扶貴

(2) 教育内容

地域保健の概念・諸理論、制度や社会資源、健康にかかわる環境など様々な要因等の情報を分析する方法を理解することを目的とした。また多職種連携教育・コンピテンシーなど地域保健活動を行う上で中心的な概念について先行研究や事例に基づきながら検討・考察を行った。

当科目は、コース共通科目であったが、新カリキュラム施行に伴い廃止されるため、必要な内容については公衆衛生看護学概論等に含めていきたい。

6) 公衆衛生危機管理論 1年次前期

(1) 担当教員 駒田真由子、佐藤潤

(2) 教育内容

自然災害や新興・再興感染症対策に関する法制度や動向について理解し、保健師としての役割、支援方法を学んでもらうことを目的に講義を行った。災害時、新興感染症の流行時、虐待等をテーマとして、健康危機管理のシステムや対象者への支援方法を取り扱った。次年度も変化する状況に対応しつつ、できる限り学生の学ぶ機会・範囲を広げていきたい。

7) 住まいづくり論 1年次前期

(1) 担当教員 佐藤潤、大越扶貴

(2) 教育内容

WHO や健康日本 21(第二次)において着目されている環境に焦点を当てた健康増進・疾病予防をするための視点や方策を講義した。また、スマートシティの見学を通して、健康と住まいについて、ミクロ・マクロ的観点から町づくりについて理解を深めた。

次年度は健康と住まいとの関連について、より最新の知見を踏まえた講義としていきたい。

8) 健康教育方法論 1年次前期

(1) 担当教員 佐藤潤

(2) 教育内容

Health Behavior : Theory, Research, and Practice, 5th Edition の和訳版を用いて対象者の自己効力感を効果的かつ持続的に高めるための各種教育スキルを講義した。

次年度は、実際の健康教育の事例を交えて、より現場的視点を涵養できるように工夫していきたい。

9) 疾病予防看護学特論 1年次前期

(1) 担当教員 駒田真由子、嶋谷圭一

(2) 教育内容

海外研究論文に触れることで、研究論文の構造、内容の理解を深めることを目的とし、研究論文の紹介と内容の議論を行う授業である。学生が自分の能力に合わせて和訳を行い、資料を作成、内容の理解に努めつつ論文紹介を行ってもらった。研究の構造やデザイン、分析など総合的に研究力を学ぶ機会となった。次年度以降も学生の能力に合わせて到達レベルを考慮しながら継続的に実施していく。

10) 自立支援教育特論 1年次前期

(1) 担当教員 佐藤潤、駒田真由子

(2) 教育内容

論文の輪読を通して、さまざまな健康課題を抱えた対象(個人・家族・集団)に対しての最新の公衆衛生看護的な課題解決の理論と手法を学んだ。

次年度は輪読の頻度や間隔を工夫して学生が無理なく英語論文に接することができるよう工夫するとともに、本質的な知につながるようにプレゼンテーションの方法を工夫したいと考える。

11) 自立支援教育特論演習 I 1年次前期

(1) 担当教員 佐藤潤、駒田真由子

(2) 教育内容

ひがしが丘保健室便りの定期的な作成を通して、地域住民地域住民のヘルスリテラシーを高め、地域のソーシャル・キャピタルを高めるためのアプローチについて実践的に理解を深めた。

次年度は、住民に提供する内容の深化をすすめるとともに、円滑なグループワークの進め方についても工夫していきたい。

12) 公衆衛生関連法規 1年次後期

(1) 担当教員 大越扶貴、金子あけみ、嶋谷圭一

(2) 教育内容

公衆衛生看護の核となる日本国憲法をはじめとして、当分野に関連した法律や制度に関する知識を習得することを目的とした。講義による知識提供および学生がその問題意識や関心から法制度を選択し調査・発表するといった2形式で行った。

次年度は、オムニバス型授業による授業全体の目的や系統的な論理の組み立てが希薄になることを防ぐために、教員間での授業目的等の共有をし、学生の反応を確認しながら授業展開をしていきたい。

13) 行政論 1年次後期

(1) 担当教員 大越扶貴、佐藤潤、駒田真由子、嶋谷圭一

(2) 教育内容

行政保健師活動の基盤となる行政の仕組みについて多様な角度から学ぶことにより、将来の公衆衛生看護に係る政策形成へ参与できる能力を養うことを目的とした。保健医療福祉分野に留まらず広く地方自治制度や財政制度について時事的テーマ(自治体の財政難の背景等)も含めつつ講義を行った。

次年度は本授業の理解度を図る試験の結果が思わしくなかったことを踏まえ、テキスト活用方法の工夫を図るなどわかりやすい授業としたい。

14) 産業保健学 1年次後期

(1) 担当教員 佐藤潤、嶋谷圭一、渡邊淳子

(2) 教育内容

産業の場で就労している対象の状況を理解し、健康増進のための活動や起こりうる健康障害を予見し対応できる産業保健活動の基礎知識と技術を習得することを目的に講義を行った。現場の産業保健師から実務について話を聞く機会も得ることができた。

現状、講義中心となっているため、次年度は演習も取り入れた授業展開を行っていきたい。

15) 学校保健学 1年次後期

(1) 担当教員 佐藤潤

(2) 教育内容

就学している対象(児童・生徒・学生)の状況を理解し、健康増進のための活動や起こりうる健康障害を予見し対応できる学校保健活動の基礎知識と技術を習得することを目的に講義を行った。

次年度は学生の理解度がより高まるように、学校保健の専門家の招聘を視野に入れる。

16) 医療保健疫学 1年時後期

(1) 担当教員 駒田真由子、嶋谷圭一

(2) 教育内容

集団における疾病や健康現象を評価するために必要な疫学の基礎を学び、公衆衛生看護の実践や公衆衛生看護研究において疫学の考え方、手法を活用する方法について理解してもらう目的で講義を行った。学生は研究のデザインやバイアス、相互作用の考え方といった疫学方法論を具体的事例とともに学ぶ機会となった。引き続き、学生が疫学的思考を身につけられるような授業展開をしていきたい。

17) 医療保健疫学演習 1 年次後期

(1) 担当教員 駒田真由子、嶋谷圭一

(2) 教育内容

既に学んだ疫学の知識を使いこなすために、研究デザインや交絡因子の調整方法について論文の講読を通して理解を深め、公衆衛生看護研究の実践に応用できる能力を養う目的で行った。この時期の学生は英語論文の輪読に慣れ、統計や疫学などの講義を受けて研究デザイン、分析方法の理解が深まってきているため、次年度も学生の理解度や能力に合わせて、資料や発表の意見や質疑応答が活発に行えることを目指して行いたい。

18) 保健統計学演習 1 年次後期

(1) 担当教員 佐藤潤、嶋谷圭一

(2) 教育内容

高度な保健統計学の知識を使いこなすために、多変量解析や生存分析などの分析手法について論文の講読を通して理解を深めるとともに、統計ソフトを用いて実際に分析することで、公衆衛生看護研究の実践に応用できる能力を養うことを目的に講義・演習を行った。

今年度は集中講義形式で行ったが、学生のリアクションを踏まえて次年度は講義形式を再検討していきたい。

19) 国際保健学 1 年次後期

(1) 担当教員 駒田真由子、嶋谷圭一、池田陽子

(2) 教育内容

世界の公衆衛生システムから日本の公衆衛生システムを省察し、具体的な看護活動に取り組む能力を習得することを目的として講義を行った。国際保健政策についての理解を促し、国際機関・国際保健の担い手に関する講義を実施したうえで、実際の国際保健活動を発展途上国で行ってきた講師に講義してもらうことで臨場感のある学修を目指した。来年度以降も今年度の反省を踏まえて状況の変化に対応しつつ実施していく。

20) コミュニティアセスメント演習 1 年次後期

(1) 担当教員 駒田真由子、嶋谷圭一

(2) 教育内容

コミュニティアセスメント論で学んだ知識、技術を応用して地域診断を実践する。様々な手法で入手したデータを基に、地域住民の健康にかかわる問題・課題とその要因を分析し、地域の生活や健康課題を解決するための活動計画とその評価、施策化の視点を演習を通して学ぶことを目的に行った。実際に調べたことを公衆衛生看護学実習Ⅰに活かすため、次年度も課題の指導を丁寧に行い、発表形式を工夫して継続的に実施していきたい。

21) 公衆衛生看護学実習Ⅰ 1 年次後期

(1) 担当教員 大越扶貴、嶋谷圭一

(2) 教育内容

実習地域の健康課題を把握し、参加事業と連動させるなど保健センター等で取り組まれている事業(施策化も含む)や実践活動との関連について考察することを目的とした。また、個人・家族・集団の支援を通して保健師として要請される技術を習得することを目的とした。

COVID-19 の感染拡大に伴い、実習期間や内容の制限もあり技術の習得については、困難を極めた。次年度は感染の影響を視野に入れ演習の充実を図っていく。【198】

22) 公衆衛生看護学実習Ⅱ 1 年次後期

(1) 担当教員 佐藤潤、嶋谷圭一

(2) 教育内容

職場における産業保健活動の実際と産業保健活動の仕組みや産業看護職の役割について実践的に学ぶ。労働者・家族の特性を理解し、健康課題の把握と援助の方法、必要な連携・協働・ネットワークづくり・職場巡視等について理解することを目的に実習を行った。

次年度も限られた時間で産業保健の実際が学べるように工夫をしていきたい。

23) 自立支援教育特論演習Ⅱ 2年次前期

(1) 担当教員 佐藤潤、駒田真由子

(2) 教育内容

ひがしが丘保健室便りの定期的な作成を通じて、保健事業のプランニング、コーディネーション、マネジメントの能力の一端を養うことを目的とした。オンライン中心の学生生活だったため、想定以上に事業管理演習を行うことが難しい場面が多々あった。

次年度はオンライン状況下であったも、科目で設定した目標が達成できるように演習を計画的に行っていききたい。

24) 地域包括ケア実習 2年次前期

(1) 担当教員 佐藤潤、駒田真由子

(2) 教育内容

地域包括支援センターでの実習を通して、地域包括支援センターの役割とそこで働く保健師の役割を学び、地域特性に応じた地域包括ケアシステム構築のために必要な視点を考察した。

次年度は、大学院としての地域包括支援センターでの実習である点を踏まえて、地域ケア会議や困難事例のケアマネジメントのような発展的内容にも踏み込んで実習できるように工夫をしていきたい。

25) 地域診療所実習 2年前期

(1) 担当教員 佐藤潤、駒田真由子

(2) 教育内容

診療所での実習を通して、地域で療養生活をしている住民の現状を認識し、そこから地域医療で果たすべき保健師の役割を考察した。

次年度は、地域包括ケアシステムの中の診療所の役割や、保健師と診療所との看看連携について、イメージできるような実習をセッティングしていきたい。

26) 医療倫理特論 1年次後期

(1) 担当教員 大越扶貴、矢野尊啓、早川正祐

(2) 教育内容

各コースの看護職が、実践を行う中で引き起こされる倫理的意思決定の場面(事例)を取り上げ、臨床倫理の4分割法等理論を援用しながら検討・考察を行った。また、倫理的課題のある共通事例を用い、各コースをミックスしたグループで多職種および家族等も含め、本人にとって最善の方針について合意する方法を討議し発表を行った。

次年度は、グループで扱う共通事例の工夫を図りながら、各コースの専門的視点を活かした討議ができるようにしたい。

27) ラボラトリー・メソッド特論 1年次前期

(1) 担当教員 小宇田智子、大島久二、明石眞言、小野孝二

(2) 教育内容

ヒトの健康像を理解するうえで必要な医学・生物学の知識を得るための手法を指導した。臨床現場で使われている手法や最新の科学研究で使われている手法を用いて、個体・組織・遺伝子および分子レベルでの生命現象について理解できるような授業の工夫をした。来年度も同様の内容で行う予定である。

28) 保健医療福祉システム特論 1年次後期

(1) 担当教員 金子あけみ、清水美智夫、平野方紹 (非常勤講師)

(2) 教育内容

保健医療福祉分野における法制度及び政策決定プロセスを学習するため、社会保障シス

テムを主軸に様々な統計データを用いて解説した。これらの知識を踏まえ、個々の学生の関心のある保健医療福祉領域のテーマを政策提案として、プレゼンテーション・討論により共有学習を行った。例年、プレゼンテーションの発表会では現行法制に対する批判的吟味やユニークな提案があり、深い学習に繋がっている。次年度も継続する予定である。

29) 地域母子保健学特論 1年次前期

(1) 担当教員 平出美栄子、福島富士子、佐藤潤、永森久美子、デッケルト博子

(2) 教育内容

地域母子保健の今日的課題について考え、地域で助産師に期待される役割、地域母子保健の活動の実際や産後ケアセンターの活動について講義を行った。学生が考える日本社会における母子保健の今日的課題の現状とこれを解決するために必要だと思われる方策、助産師が地域で果たすべき役割について、討論し学習を深めた。

30) 保健統計学 1年次後期

(1) 担当教員 佐藤潤、浦中桂一

(2) 教育内容

コンピュータ及び統計解析を習得するための基本的な知識を理解するとともに、統計解析演習を行い、基本的な解析手法を理解することを目的に講義を行った。今年度は対面とオンライン講義を使い分け、対面では統計解析の演習を中心に、オンラインでは文献における統計結果の読み方を中心に講義を実施した。

31) 研究特論 1年次前期

(1) 担当教員 大島久二、田中留伊、朝澤恭子、小野孝二、大越扶貴、小宇田智子

(2) 教育内容

看護研究における初歩的な研究テーマの設定法、データ収集法、解析法、倫理上の配慮などについて具体例を示しながら解説した。本来の研究はどういうものであるかを教授し、また、研究成果を学会あるいは学術誌に発表するためのプレゼンテーションおよび論文作成に関する基本的な手法について習得できた。

32) 課題研究 1年次・2年次通年

(1) 担当教員 大島久二、田中留伊、平出美栄子、佐藤潤、その他全教員

(2) 教育内容

一人ひとりの院生が、個別の研究課題を設定し、関連情報の収集、研究計画の立案、研究実施、研究成果の発表に至る、研究全般にわたるプロセスを担当教員の助言・指導を受けながら実施した。論文の執筆と学会を模した形式の発表会においては抄録やスライドの準備を行い、成果を論文としてまとめる力、プレゼンテーション能力を習得できた。

学生	指導教員	研究課題
KG420001	松本准教授 中村講師	高等学校での性教育におけるピアエデュケーションの実態及び導入に向けての支援に関する研究

**【看護科学コース】**

**1. 教育方針**

看護学の発展および看護の一層の質の向上のために、教育現場と実践現場との連携と協

同を通して、課題解決に的確に対応できる人材の育成を目指す。特に、エビデンスを蓄積し、それらのエビデンスを看護実践にまで発展させることができる資質を涵養し、社会および時代のニーズに的確に対応できる課題提供、課題解決能力を備えた教育研究者としての人材を育成する。

## 2. 科目

### 1) 看護基盤科学演習Ⅱ 2年次通年

(1) 担当教員 看護基盤学・臨床看護学・応用看護学担当教員

(2) 教育内容

看護基盤学、臨床看護学、応用看護学における基礎的課題を取り上げ、それに対する文献抄読を通して具体的方策を立案した。

### 2) 臨床看護学演習Ⅱ 2年次通年

(1) 担当教員 看護基盤学・臨床看護学・応用看護学担当教員

(2) 教育内容

看護基盤学、臨床看護学、応用看護学における臨床的課題を取り上げ、それに対する文献抄読を通して具体的方策を立案した。

### 3) 特別研究 1・2年次通年

学生	指導教員	研究課題
KG320001	竹内教授	臨床看護師から看護系大学教員のキャリアを選択した理由

## 【博士課程】

### 1. 教育方針

看護学のさらなる進化および看護の一層の質の向上に「貢献できる教育研究者」を養成することを目的とする。看護、看護学の発展のためには、EBNに基づいた研究活動、教育活動、実践活動が必要である。博士論文の制作を通して、教育研究者として、エビデンスを「つくり」「つたえ」「つかう」プロセスを理解し、それぞれのプロセスにおいて積極的に取り組み、看護界が抱える課題を的確に抽出し、解決していくことができる能力を醸成する。

## 2. 科目

### 1) 特別研究

学生	指導教員	研究課題
KD017001	大島研究科長	特別養護老人ホームにおける看取りについての関係者間の話し合いに関する調査研究
KD018002	竹内教授	慢性疾患患児の父親の Sense of Coherence

KD019001	中島教授	地域包括ケアシステムを推進する「電子版看護情報手帳システム」の開発に向けた基礎的研究
KD019004	大島研究科長	青年期の性の自己評価尺度の開発